

環境に負荷をかけない生活様式のために
～サステナブルファッションの
実現に向けて～

調査報告書

令和4年12月

富山県消費者協会・富山県消費生活研究グループ連絡協議会

はじめに

富山県消費者協会 会長 尾畑 納子

今秋、エジプトで行われたCOP27（国連気候変動枠組条約第27回締約国会議）では、気候変動が原因とみられる自然災害の多発が温室効果ガス排出の少ない途上国に不平等な損害を与えているとして、「損失と損害」に対する先進国の資金支援が大きな議論となりました。私たちの暮らす日本でも、近年自然災害が各地で頻発しています。こうした危機を乗り越えるため、カーボンニュートラルの脱炭素化への取り組みや、これまで廃棄されていた製品や原材料も資源として循環させるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現が重要であり、消費者自身もライフスタイルを持続可能なものに転換していくことが求められています。

そこで本年度の調査では、私たちの暮らしの必需品である衣服を、サステナブルファッションの視点から取り上げました。私たちが着用している衣服は、原材料の調達から縫製に至る多くを海外に依存しており、製造にかかるエネルギー使用量やライフサイクルの短さなどから環境負荷が大きいことが指摘されています。こうしたことから、家庭における衣生活について、購入、着用、保管、廃棄までの一連の行動を調査し、持続可能な衣生活の在り方について、消費者、事業者、行政がそれぞれ今後どのように取り組んでいけばよいのか、ヒントを得ることを目的として実施いたしました。この報告書が、現在の消費者行動を環境の観点から見つめ、身近な暮らしからサステナブルな社会、地球にやさしい行動への転換の一助となれば幸いです。

富山県消費生活研究グループ連絡協議会 会長 早川 泰子

地球が、住みよい場所であるようにとの願いの元、私たち消費生活研究グループは、これまで食品ロスの削減や、プラスチックごみ削減などの課題に取り組んでまいりました。

今年度は、衣食住の「衣」に焦点を当て、環境にやさしい衣服の買い方、管理、処分などについての意識や行動などについてアンケートを実施しました。

アンケートの結果では、フリマアプリなどを利用する若い世代などで、実際に着用していない衣服の割合が少ない傾向が見られ、サステナブルファッションの実現に力強い方向性を示しているように感じられました。また、多くの消費者が、事業者や行政に不用になった衣服の有効利用に関する情報の提供を望んでいることも判りました。原材料調達から、生産、流通、廃棄に至る各段階で多くのエネルギーを使っていることを考えると、使われずに廃棄されることの重さを感じずにいられません。情報技術などの力を借りながら、できるだけ無駄を生まないシステムの構築が望まれます。アンケートの実施に当たっては、参与団体、大学生や地域の皆様など多数の方々のご協力をいただき、ご意見をいただいたことを厚くお礼申し上げます。

目次

I 調査の概要

調査目的、調査時期、調査対象、調査方法 -----1

II 回答者の属性

性別、年代、職業、世帯人数、地域別 -----1

III 調査結果の概要

1 サステナブルな生活に関する意識について

(問1)以下の項目について、どの程度意識して行動していますか。 -----2

2 衣服・ファッションについて

(問2)地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素の削減のために、食や住について関心が高まっていますが、最近の環境省の調査では、衣服による環境負荷等の社会的課題が指摘されています。次のうち、知っている項目はどれですか。 -----4

(問3)日常着用する衣服を購入する時に、重視することは何ですか。 -----5

(問4)衣服を購入する手段は、主にどれですか。 -----6

(問5)お持ちの衣服の、日常の着用状況についてお聞きします。 -----7

(問6)問5で「すべて着用している」と答えた方以外にお聞きします。
着ていない衣服についての理由をお聞かせください。 -----8

(問7)着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っていますか。 -----9

(問8)中古衣服・古着について、あなたの感覚に最も近いものは、どれですか。 -----10

3 衣服の大量破棄を生まないために

(問9)「サステナブルファッション」という言葉を知っていますか。 -----11

(問10)サステナブルファッションの実現に向けた次の行動のうち、取り組みたいと思うものはどれですか。 -----12

(問11)サステナブルファッションの実現のために、事業者に望むことは何ですか。 ---13

(問12)サステナブルファッションの実現のために、行政に望むことは何ですか。 ----14

4 参考データ -----15

IV まとめ -----19

V 回答者の意見 -----30

VI 調査票 -----43

環境に負荷をかけない生活様式のために ～サステナブルファッションの実現にむけて～

I 調査の概要

◆調査目的

新型コロナウイルスの発生から3年が経ち、日常の生活も変化しつつある中、特に情報ツールの普及により消費者の行動も多様化しています。一方で、地球温暖化やエネルギーなどの環境問題では、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた行動指針を掲げる事業者や団体も多くなり、課題解決に向けた取り組みが進みつつあります。

今回の調査では、日常生活にかかわりの深いファッションと環境問題に着目し、私たちが日常着用する衣服をテーマに取り上げ、皆様の消費者としての日常行動や、これからのあるべき姿についてご意見を伺いたく、アンケート調査を実施いたしました。

◆調査時期：令和4年6月下旬～7月下旬

◆調査対象：県内在住者 配布 2,007人 回答者 1,839人【回収率 91.6%】

◆調査方法：紙面調査法(自記入式)

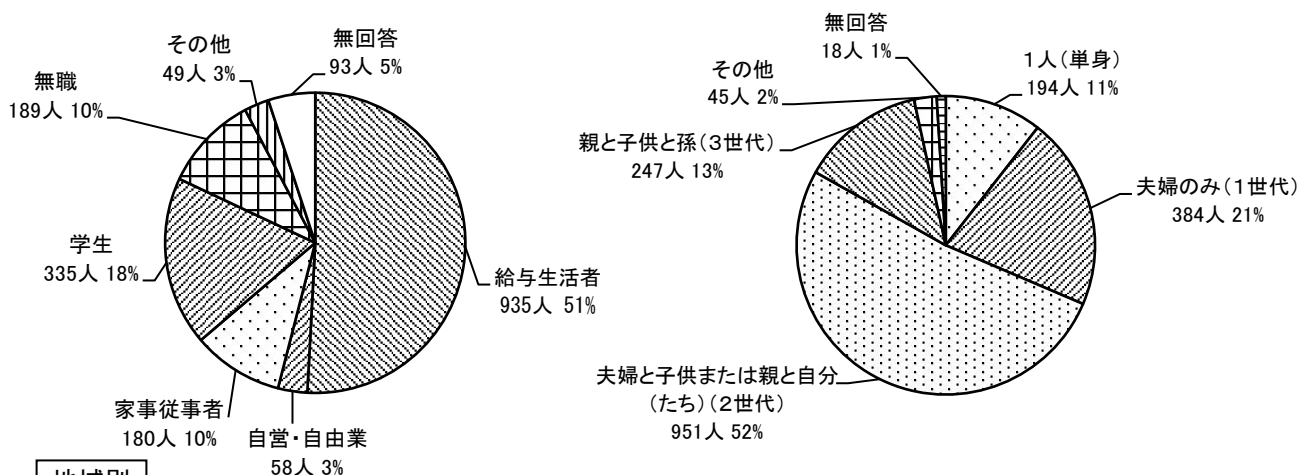
II 回答者の属性

性別 男性 566人(31%) 女性 1,190人(65%) 回答しない 7人 無回答 76人(4%)

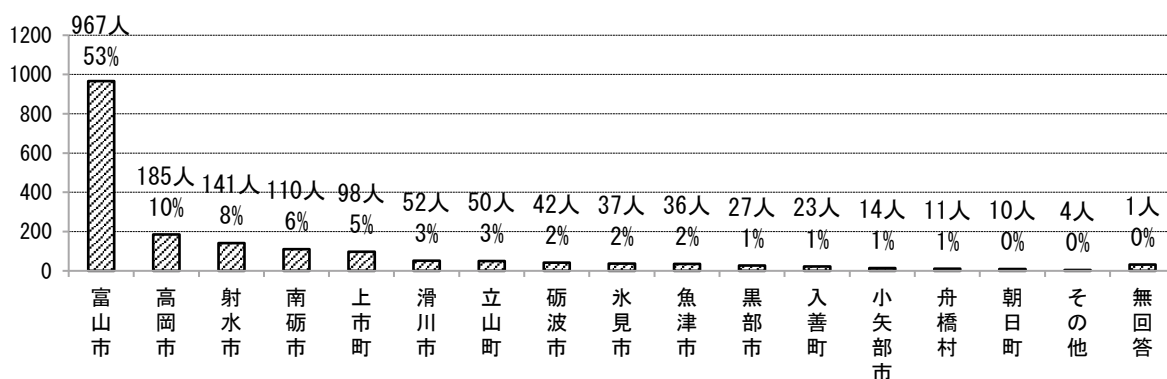
年代	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
	204人	296人	175人	251人	313人	277人	319人	4人
	11%	16%	10%	14%	17%	15%	17%	0%

職業

世帯人数



地域別



Ⅲ 調査結果の概要

1. サステナブルな生活に関する意識について

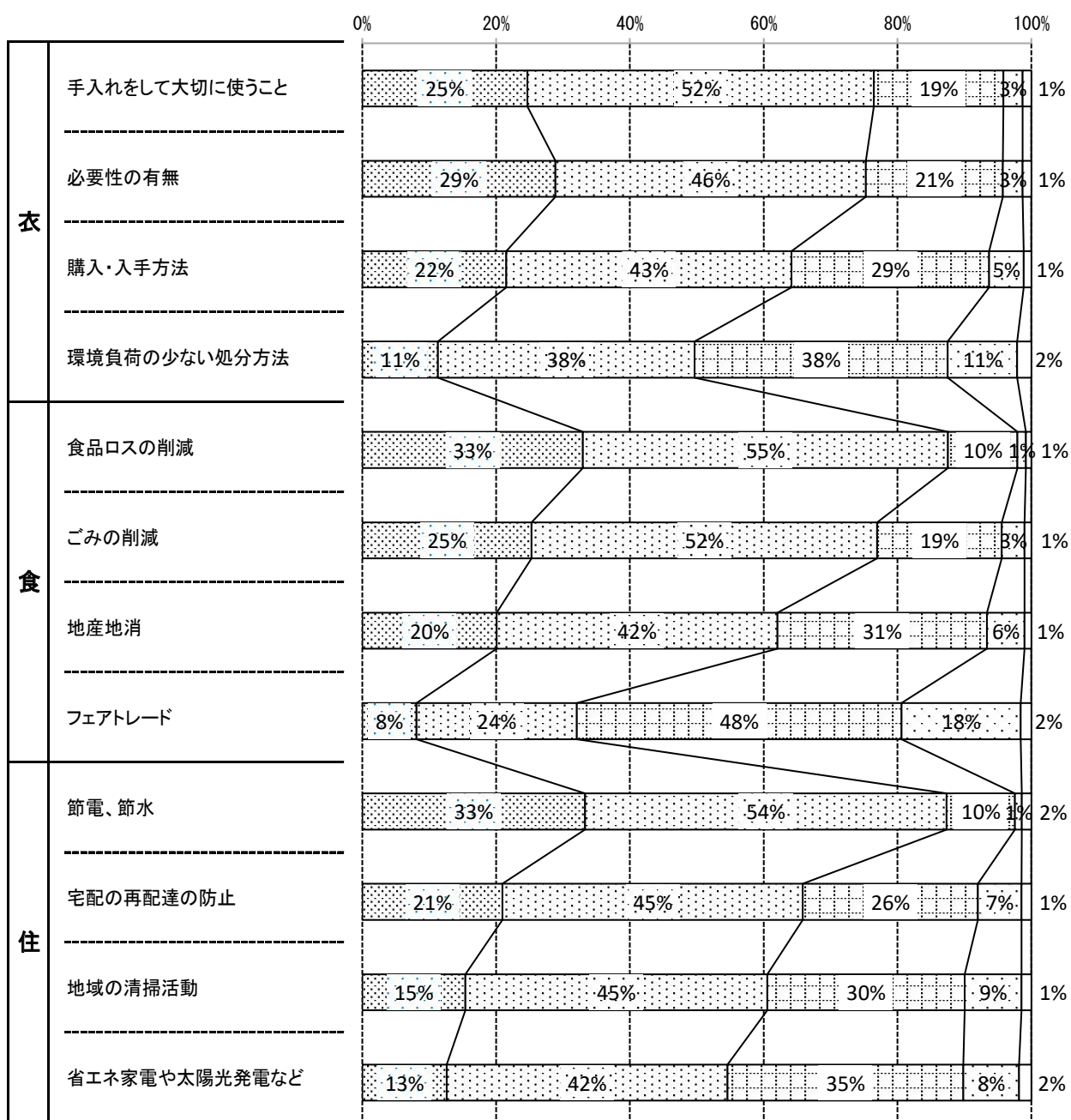
問1 以下の項目について、どの程度意識して行動していますか。

(1) 全体では

「常時意識して行動している」「概ね意識して行動している」合わせて高いのは、「衣」では、「手入れをして大切に使うこと」77%、「食」では、「食品ロスの削減」88%、「住」では、「節電、節水」87%である。

「あまり意識していない」「全く意識していない」合わせて高いのは、「衣」では、「環境負荷の少ない処分方法」49%、「食」では、「フェアトレード」66%、「住」では、「省エネ家電や太陽光発電など」43%である。

常時意識して行動している
 概ね意識して行動している
 余り意識していない
 全く意識していない
 無回答



(2)年代別・男女別では

「常時意識して行動している」と「概ね意識して行動している」を合わせたものの割合で見ると、「衣」については、20歳未満が高いのは、「必要性の有無」「購入方法」である。60代が高いのは、「手入れをして大切に使う」である。「食」については、50代、60代は、「食品ロスの削減」が高い。「住」については、60代以上は、「地域の清掃活動」が高い。

女性は、「省エネ家電や太陽光発電など」を除く全項目で高く、「地域の清掃活動」は、男女差がない。

年代別／男女別	人数	問1（常時・概ね意識している）											
		衣				食				住			
		に手入れをして大切に	必要性の有無	購入・入手方法	処分方法の少ない	食品ロスの削減	ごみの削減	地産地消	フェアトレード	節電、節水	止配の再配達の防	地域の清掃活動	省エネ家電や太陽光発電など
20歳未満	204人	164(80%)	184(90%)	163(80%)	102(50%)	169(83%)	155(76%)	103(50%)	63(31%)	177(87%)	131(64%)	94(46%)	111(54%)
20代	296人	217(73%)	242(82%)	195(66%)	113(38%)	244(82%)	196(66%)	126(43%)	72(24%)	256(86%)	172(58%)	101(34%)	135(46%)
30代	175人	127(73%)	127(73%)	93(53%)	74(42%)	151(86%)	116(66%)	99(57%)	46(26%)	142(81%)	110(63%)	86(49%)	80(46%)
40代	251人	185(74%)	179(71%)	149(59%)	116(46%)	217(86%)	178(71%)	144(57%)	70(28%)	209(83%)	168(67%)	145(58%)	144(57%)
50代	313人	240(77%)	227(73%)	194(62%)	152(49%)	285(91%)	256(82%)	206(66%)	101(32%)	283(90%)	210(67%)	217(69%)	178(57%)
60代	277人	226(82%)	208(75%)	179(65%)	151(55%)	261(94%)	234(84%)	209(75%)	110(40%)	249(90%)	200(72%)	218(79%)	169(61%)
70歳以上	319人	245(77%)	215(67%)	205(64%)	204(64%)	281(88%)	277(87%)	252(79%)	126(39%)	287(90%)	219(69%)	251(79%)	185(58%)
無回答	4人	2(50%)	2(50%)	2(50%)	1(25%)	2(50%)	3(75%)	2(50%)	2(50%)	3(75%)	1(25%)	1(25%)	2(50%)
男性	566人	413(73%)	401(71%)	347(61%)	259(46%)	476(84%)	416(73%)	302(53%)	155(27%)	482(85%)	368(65%)	344(61%)	318(56%)
女性	1,190人	931(78%)	924(78%)	783(66%)	615(52%)	1068(90%)	931(78%)	791(66%)	405(34%)	1056(89%)	785(66%)	722(61%)	637(54%)
回答しない	7人	5(71%)	7(100%)	5(71%)	3(43%)	6(86%)	6(86%)	5(71%)	4(57%)	6(86%)	6(86%)	5(71%)	4(57%)
無回答	76人	57(75%)	52(68%)	45(59%)	36(47%)	60(79%)	62(82%)	43(57%)	26(34%)	62(82%)	52(68%)	42(55%)	45(59%)
全体	1,839人	1406(76%)	1384(75%)	1180(64%)	913(50%)	1610(88%)	1415(77%)	1141(62%)	590(32%)	1606(87%)	1211(66%)	1113(61%)	1004(55%)

年代別／男女別	人数	問1（常時意識している）											
		衣				食				住			
		に手入れをして大切に	必要性の有無	購入・入手方法	処分方法の少ない	食品ロスの削減	ごみの削減	地産地消	フェアトレード	節電、節水	止配の再配達の防	地域の清掃活動	省エネ家電や太陽光発電など
20歳未満	204人	74(36%)	108(53%)	92(45%)	40(20%)	68(33%)	60(29%)	32(16%)	23(11%)	79(39%)	52(25%)	33(16%)	43(21%)
20代	296人	80(27%)	117(40%)	83(28%)	34(11%)	109(37%)	68(23%)	39(13%)	30(10%)	114(39%)	63(21%)	23(8%)	42(14%)
30代	175人	32(18%)	41(23%)	25(14%)	10(6%)	34(19%)	18(10%)	21(12%)	8(5%)	32(18%)	36(21%)	8(5%)	17(10%)
40代	251人	45(18%)	53(21%)	45(18%)	17(7%)	65(26%)	37(15%)	40(16%)	10(4%)	59(24%)	48(19%)	25(10%)	26(10%)
50代	313人	60(19%)	70(22%)	46(15%)	28(9%)	111(35%)	74(24%)	56(18%)	22(7%)	109(35%)	60(19%)	46(15%)	32(10%)
60代	277人	67(24%)	55(20%)	39(14%)	27(10%)	84(30%)	79(29%)	66(24%)	23(8%)	88(32%)	53(19%)	55(20%)	29(10%)
70歳以上	319人	95(30%)	87(27%)	66(21%)	52(16%)	134(42%)	128(40%)	114(36%)	32(10%)	130(41%)	73(23%)	92(29%)	43(13%)
無回答	4人	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(25%)	1(25%)	1(25%)	1(25%)	1(25%)	0(0%)	1(25%)	0(0%)
男性	566人	144(25%)	160(28%)	128(23%)	64(11%)	181(32%)	131(23%)	87(15%)	51(9%)	185(33%)	109(19%)	83(15%)	87(15%)
女性	1,190人	291(24%)	349(29%)	253(21%)	135(11%)	390(33%)	306(26%)	261(22%)	86(7%)	398(33%)	250(21%)	185(16%)	132(11%)
回答しない	7人	2(29%)	3(43%)	3(43%)	3(43%)	5(71%)	5(71%)	4(57%)	2(29%)	6(86%)	4(57%)	2(29%)	3(43%)
無回答	76人	17(22%)	19(25%)	12(16%)	6(8%)	30(39%)	23(30%)	17(22%)	10(13%)	23(30%)	22(29%)	13(17%)	10(13%)
全体	1,839人	454(25%)	531(29%)	396(22%)	208(11%)	606(33%)	465(25%)	369(20%)	149(8%)	612(33%)	385(21%)	283(15%)	232(13%)

※色分けについて

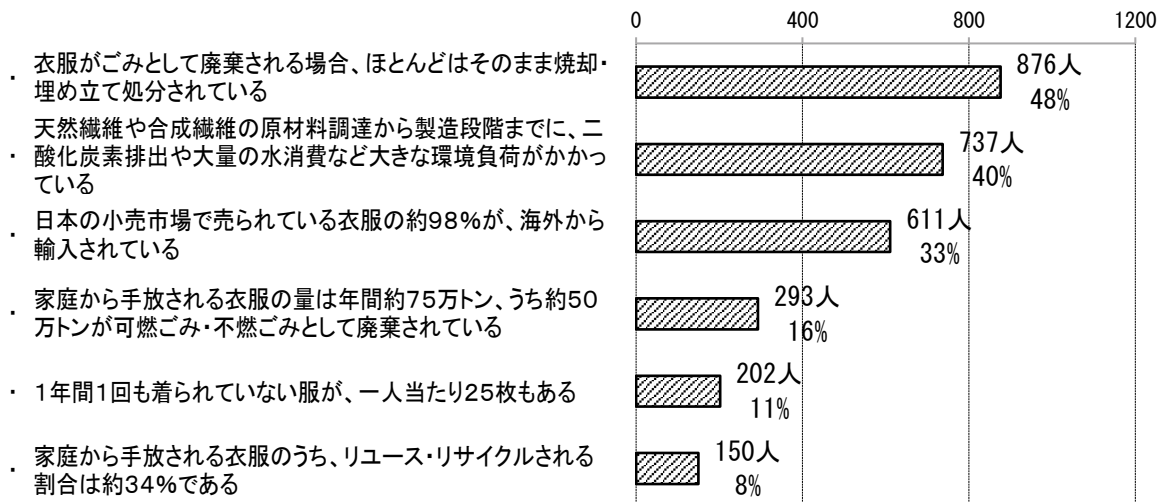
各項目について有意に高いもの(有意水準5%)を濃い灰色で、低いものを薄い灰色で表示しています。

2. 衣服・ファッションについて

問2 地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素の削減のために、食や住について関心が高まっていますが、最近の環境省の調査では、衣服による環境負荷等の社会的課題が指摘されています。次のうち、知っている項目はどれですか。(いくつでも)

(1) 全体では

知っている項目としては、「衣服が廃棄される場合、ほとんどは焼却・埋め立て処分されている」が48%と高い。「家庭から手放される衣服のうち、リユース、リサイクルされる割合は約34%である」は8%と低い。



(2) 年代別・男女別では

「衣服がゴミとして廃棄される場合、ほとんどは焼却・埋め立て処分されている」は、60代以上が高く、20代が低い。「繊維の原材料調達から製造段階までに、大きな環境負荷がかかっている」は、20歳未満が高い。男女別では、あまり差がない。

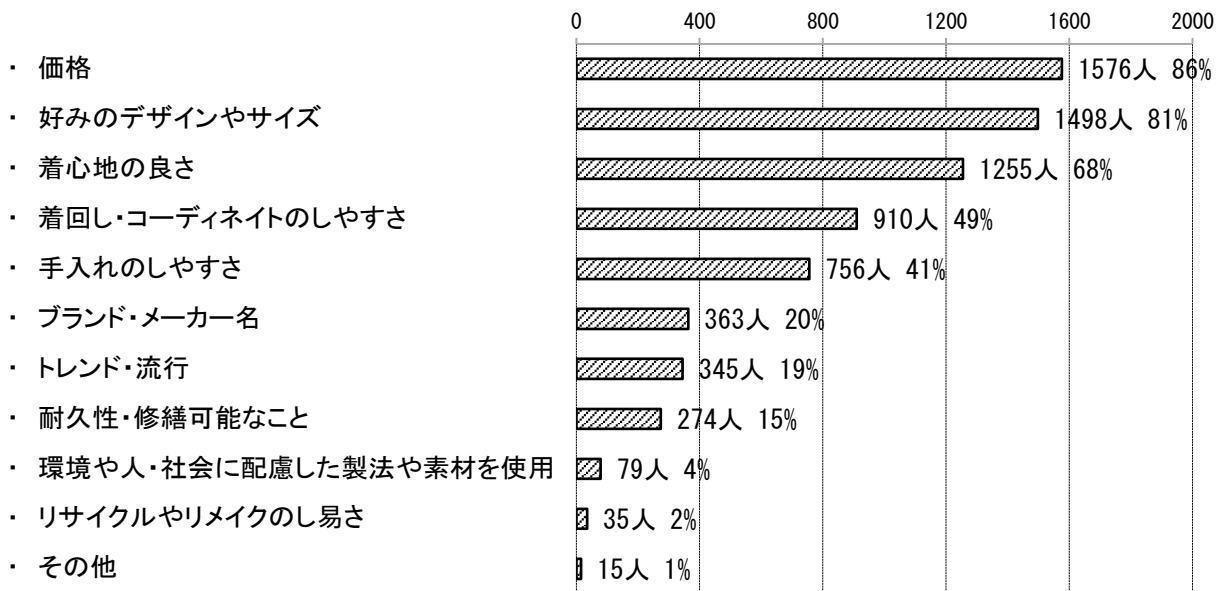
年代別 ／ 男女別	人数	項目					
		てまる衣 い焼場服 る却合が ・、ご 埋ほみ めとと 立んし てどで 処は廃 分そ棄 さのさ れまれ	荷のに料天 が水、調然 か消二達織 か費酸か維 つな化らや てど炭製合 い大素造成 るき排段織 な出階維 環やまの 境大で原 負量材	外いに日 かる本 から衣の 輸服小 入の売 さ約市 れ9場 て8で い%売 るがら 、れ 海て	れみち量家 て・約は庭 い不5年か る燃0間ら ご万約手 みト7放 とン5さ しが万れ て可トる 廃燃ン衣 棄ご、服 さうの	もい1 あ服年 るが間 、1 一回 人も 当着 たら りれ 2て 5い 枚な	あるう家 るさち庭 れ、から 割ユ手 合 放 はスさ 約・れる 4サ衣 %イ服 でクの
20歳未満	204人	82(40%)	101(50%)	58(28%)	35(17%)	16(8%)	21(10%)
20代	296人	97(33%)	117(40%)	87(29%)	44(15%)	26(9%)	28(9%)
30代	175人	76(43%)	60(34%)	59(34%)	14(8%)	11(6%)	12(7%)
40代	251人	113(45%)	84(33%)	88(35%)	28(11%)	28(11%)	13(5%)
50代	313人	149(48%)	125(40%)	97(31%)	42(13%)	22(7%)	17(5%)
60代	277人	163(59%)	124(45%)	95(34%)	54(19%)	29(10%)	24(9%)
70歳以上	319人	195(61%)	126(39%)	127(40%)	76(24%)	69(22%)	35(11%)
無回答	4人	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(25%)	0(0%)
男性	566人	247(44%)	240(42%)	175(31%)	86(15%)	51(9%)	46(8%)
女性	1,190人	594(50%)	460(39%)	406(34%)	197(17%)	137(12%)	96(8%)
回答しない	7人	1(14%)	4(57%)	2(29%)	1(14%)	3(43%)	3(43%)
無回答	76人	34(45%)	33(43%)	28(37%)	9(12%)	11(14%)	5(7%)
全体	1,839人	876(48%)	737(40%)	611(33%)	293(16%)	202(11%)	150(8%)

問3 日常着用する衣服を購入する時に、重視することは何ですか。(5つまで)

(1)全体では

重視するのは、「価格」86%、「好みのデザインやサイズ」81%、「着心地の良さ」68%、「着回しのしやすさ」49%、「手入れのしやすさ」41%の順である。

「環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用」は4%、「リサイクルやリメイクのし易さ」は2%と低い。



(2)年代別・男女別では

「好みのデザインやサイズ」「ブランド・メーカー名」「トレンド・流行」は、20代以下が高く、60代以上が低い。「価格」「着回し・コーディネートしやすさ」は、20歳未満が高い。「着心地の良さ」「手入れのしやすさ」は、60代以上が高く、20代以下が低い。

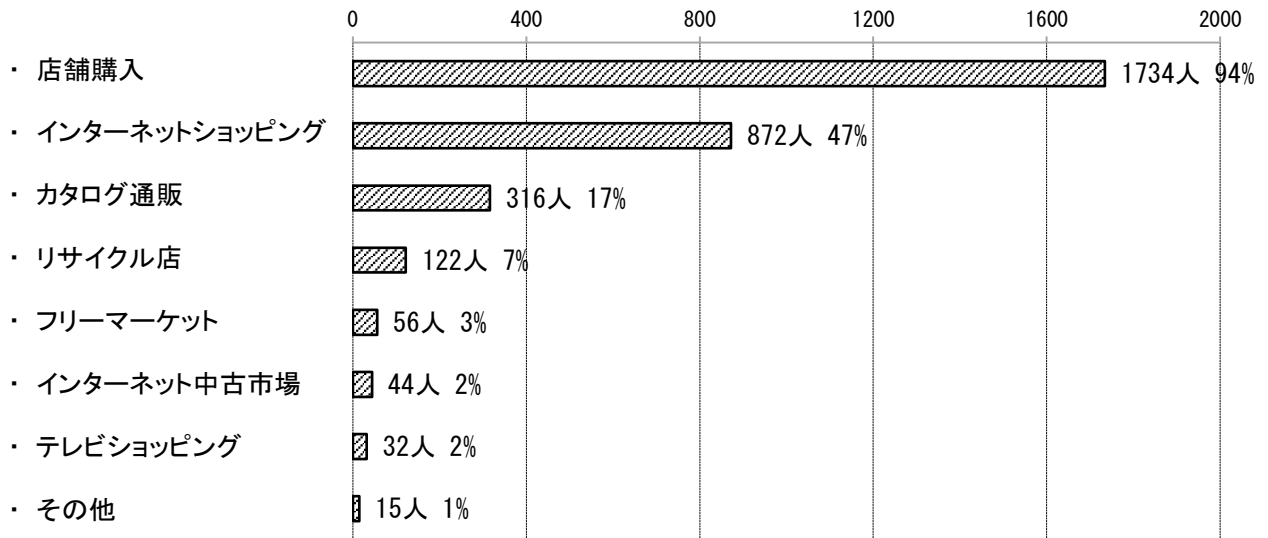
女性が高いのは、「着心地の良さ」「手入れのしやすさ」であり、男性が高いのは、「ブランド・メーカー名」「耐久性・修繕可能なこと」である。

年代別 ／ 男女別	人数	項目										
		価格	好みのデザインやサイズ	着心地の良さ	着回し・コーディネートしやすさ	手入れのしやすさ	ブランド・メーカー名	トレンド・流行	耐久性・修繕可能なこと	環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用	リサイクルやリメイクのし易さ	その他
20歳未満	204人	191(94%)	183(90%)	113(55%)	128(63%)	31(15%)	59(29%)	79(39%)	29(14%)	7(3%)	2(1%)	0(0%)
20代	296人	262(89%)	269(91%)	158(53%)	158(53%)	52(18%)	98(33%)	98(33%)	35(12%)	5(2%)	0(0%)	3(1%)
30代	175人	149(85%)	149(85%)	111(63%)	94(54%)	60(34%)	48(27%)	38(22%)	22(13%)	6(3%)	1(1%)	1(1%)
40代	251人	219(87%)	211(84%)	160(64%)	126(50%)	98(39%)	47(19%)	45(18%)	29(12%)	10(4%)	2(1%)	1(0%)
50代	313人	277(88%)	252(81%)	217(69%)	140(45%)	136(43%)	57(18%)	47(15%)	50(16%)	11(4%)	4(1%)	5(2%)
60代	277人	230(83%)	209(75%)	222(80%)	124(45%)	164(59%)	34(12%)	24(9%)	54(19%)	10(4%)	10(4%)	3(1%)
70歳以上	319人	245(77%)	222(70%)	272(85%)	138(43%)	214(67%)	19(6%)	13(4%)	54(17%)	30(9%)	16(5%)	2(1%)
無回答	4人	3(75%)	3(75%)	2(50%)	2(50%)	1(25%)	1(25%)	1(25%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男性	566人	492(87%)	453(80%)	367(65%)	195(34%)	98(17%)	158(28%)	110(19%)	113(20%)	24(4%)	6(1%)	4(1%)
女性	1,190人	1022(86%)	987(83%)	832(70%)	675(57%)	631(53%)	187(16%)	220(18%)	145(12%)	45(4%)	26(2%)	11(1%)
回答しない	7人	4(57%)	3(43%)	3(43%)	1(14%)	2(29%)	2(29%)	4(57%)	2(29%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
無回答	76人	58(76%)	55(72%)	53(70%)	39(51%)	25(33%)	16(21%)	11(14%)	14(18%)	10(13%)	3(4%)	0(0%)
全体	1,839人	1576(86%)	1498(81%)	1255(68%)	910(49%)	756(41%)	363(20%)	345(19%)	274(15%)	79(4%)	35(2%)	15(1%)

問4 衣服を購入する手段は、主にどれですか。(3つまで)

(1)全体では

「店舗購入」94%と高く、「インターネットショッピング」47%が続く。
「インターネット中古市場」「テレビショッピング」は2%と低い。



(2)年代別・男女別では

「店舗購入」は総じて高い。40代以下が高いのは、「インターネットショッピング」であり、60代以上は「カタログ通販」が高い。

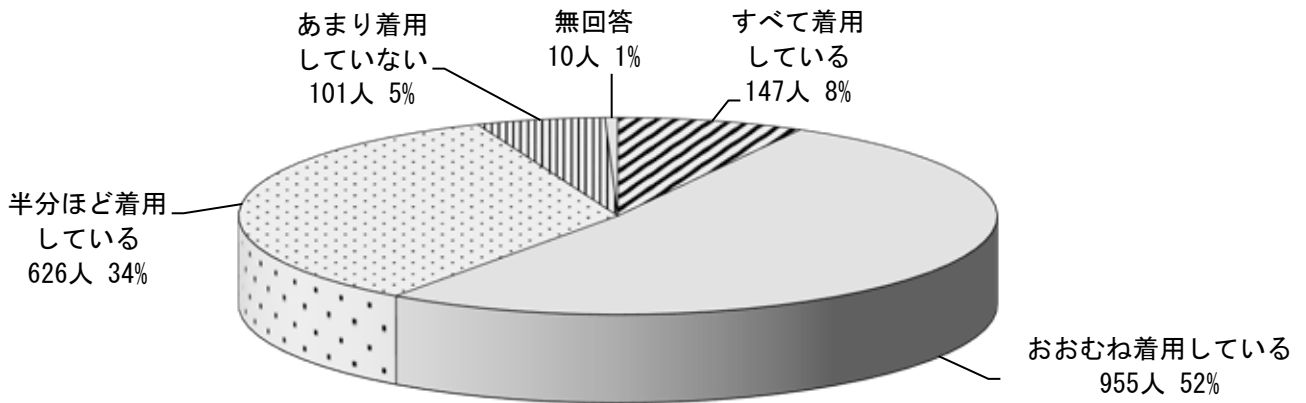
女性が高いのは、「カタログ通販」で、男性が高いのは、「インターネット中古市場」である。

	年代別／男女別	人数	項目							
			店舗購入	インターネットショッピング	カタログ通販	リサイクル店	フリーマーケット	インターネット中古市場	テレビショッピング	その他
年代別	20歳未満	204人	190(93%)	145(71%)	11(5%)	15(7%)	7(3%)	10(5%)	2(1%)	1(0%)
	20代	296人	285(96%)	195(66%)	11(4%)	25(8%)	12(4%)	7(2%)	4(1%)	1(0%)
	30代	175人	159(91%)	120(69%)	7(4%)	8(5%)	6(3%)	8(5%)	2(1%)	0(0%)
	40代	251人	234(93%)	161(64%)	25(10%)	11(4%)	3(1%)	2(1%)	0(0%)	1(0%)
	50代	313人	294(94%)	144(46%)	52(17%)	15(5%)	7(2%)	8(3%)	2(1%)	0(0%)
	60代	277人	263(95%)	73(26%)	85(31%)	26(9%)	11(4%)	4(1%)	9(3%)	5(2%)
	70歳以上	319人	305(96%)	31(10%)	125(39%)	21(7%)	10(3%)	5(2%)	13(4%)	7(2%)
	無回答	4人	4(100%)	3(75%)	0(0%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	566人	535(95%)	276(49%)	45(8%)	41(7%)	17(3%)	21(4%)	9(2%)	2(0%)
	女性	1,190人	1120(94%)	550(46%)	256(22%)	73(6%)	38(3%)	23(2%)	22(2%)	13(1%)
	回答しない	7人	5(71%)	4(57%)	2(29%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(14%)	0(0%)
	無回答	76人	74(97%)	42(55%)	13(17%)	8(11%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
	全体	1,839人	1734(94%)	872(47%)	316(17%)	122(7%)	56(3%)	44(2%)	32(2%)	15(1%)

問5 お持ちの衣服の、日常の着用状況についてお聞きします。(1つだけ)

(1)全体では

「すべて着用している」8%、「概ね着用している」52%、合わせて60%である。「半分ほど着用している」34%、「あまり着用していない」は、5%である。



(2)年代別・男女別では

20歳未満が高いのは、「すべて着用している」「おおむね着用している」である。40代以上が高いのは、「半分ほど着用している」であり、60代は「あまり着用していない」が、高い。

「すべて着用している」は、男性が高く、「半分ほど着用している」は、女性が高い。「おおむね着用している」は、男女差がない。

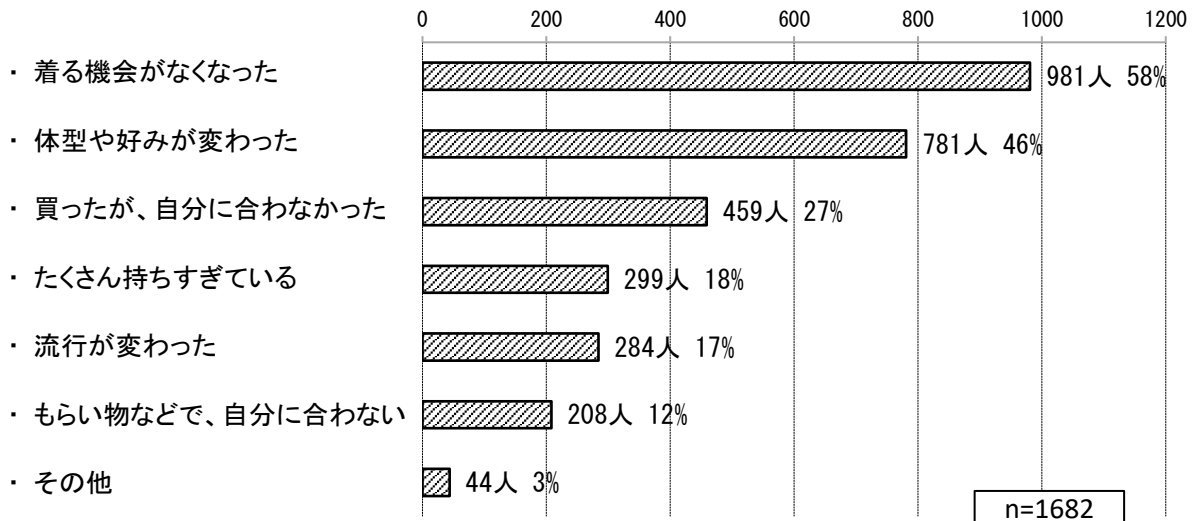
	年代別／男女別	人数	項目				
			い す べ て 着 用 し て	て お お む ね 着 用 し	て 半 い 分 ほ ど 着 用 し	い あ ま り 着 用 し て	無 回 答
年代別	20歳未満	204人	34(17%)	139(68%)	29(14%)	1(0%)	1(0%)
	20代	296人	39(13%)	160(54%)	85(29%)	11(4%)	1(0%)
	30代	175人	13(7%)	99(57%)	52(30%)	11(6%)	0(0%)
	40代	251人	13(5%)	125(50%)	99(39%)	12(5%)	2(1%)
	50代	313人	15(5%)	147(47%)	126(40%)	23(7%)	2(1%)
	60代	277人	11(4%)	133(48%)	104(38%)	27(10%)	2(1%)
	70歳以上	319人	22(7%)	149(47%)	130(41%)	16(5%)	2(1%)
	無回答	4人	0(0%)	3(75%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	566人	69(12%)	295(52%)	170(30%)	30(5%)	2(0%)
	女性	1,190人	71(6%)	613(52%)	432(36%)	66(6%)	8(1%)
	回答しない	7人	2(29%)	4(57%)	1(14%)	0(0%)	0(0%)
	無回答	76人	5(7%)	43(57%)	23(30%)	5(7%)	0(0%)
	全体	1,839人	147(8%)	955(52%)	626(34%)	101(5%)	10(1%)

問6 問5で「すべて着用している」と答えた方以外にお聞きします。着ていない衣服についての理由をお聞かせください。(いくつでも)

(1)全体では

「着る機会がなくなった」58%、「体型や好みが変わった」46%である。

「もらい物などで自分に合わない」は、12%と低い。



(2)年代別・男女別では

60代以上が高く、20代以下が低いのは、「着る機会がなくなった」である。20歳未満が高いのは、「買ったが自分に合わなかった」である。50代以上が高く、20歳未満が低いのは、「たくさん持ちすぎている」である。40代、50代が高いのは、「流行が変わった」である。

女性が高いのは、「買ったが自分に合わなかった」「流行が変わった」である。

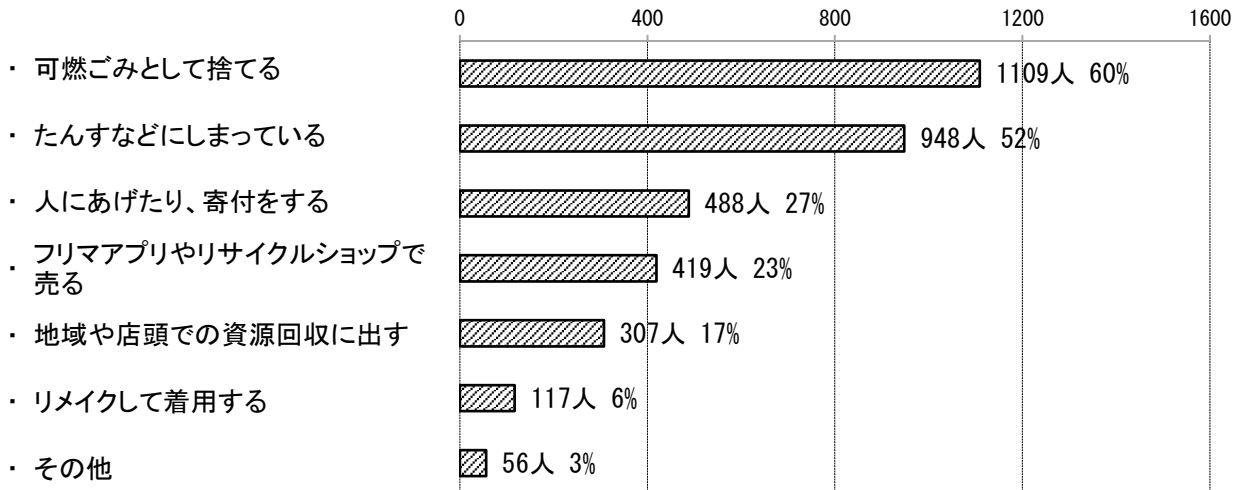
	年代別／男女別	人数	項目						
			な着る機会がなくな	わつ型や好みが変わ	合買ったが、自分に	てたくさん持ちすぎ	流行が変わった	自もらいに合わないで、	その他
年代別	20歳未満	169人	70(41%)	66(39%)	64(38%)	11(7%)	27(16%)	28(17%)	6(4%)
	20代	256人	118(46%)	109(43%)	68(27%)	38(15%)	35(14%)	35(14%)	7(3%)
	30代	162人	83(51%)	73(45%)	36(22%)	25(15%)	25(15%)	13(8%)	3(2%)
	40代	236人	132(56%)	119(50%)	63(27%)	31(13%)	53(22%)	23(10%)	6(3%)
	50代	296人	177(60%)	145(49%)	80(27%)	69(23%)	62(21%)	29(10%)	7(2%)
	60代	264人	175(66%)	133(50%)	72(27%)	60(23%)	38(14%)	36(14%)	12(5%)
	70歳以上	295人	224(76%)	135(46%)	76(26%)	65(22%)	44(15%)	44(15%)	3(1%)
	無回答	4人	2(50%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	495人	277(56%)	214(43%)	92(19%)	76(15%)	39(8%)	48(10%)	22(4%)
	女性	1,111人	664(60%)	535(48%)	341(31%)	210(19%)	236(21%)	150(14%)	22(2%)
	回答しない	5人	2(40%)	3(60%)	0(0%)	1(20%)	0(0%)	2(40%)	0(0%)
	無回答	71人	38(54%)	29(41%)	26(37%)	12(17%)	9(13%)	8(11%)	0(0%)
	全体	1,682人	981(58%)	781(46%)	459(27%)	299(18%)	284(17%)	208(12%)	44(3%)

問7 着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っていますか。(3つまで)

(1)全体では

「可燃ごみとして捨てる」60%、「たんすなどにしまっている」52%である。

「地域や店頭での資源回収に出す」6%、「リメイクして着用する」6%である。



(2)年代別・男女別では

60代、40代で高く、20代以下が低いのは、「可燃ごみとして捨てる」である。20代以下が高いのは、「人にあげたり、寄付をする」である。40代以下が高いのは、「フリマアプリやリサイクルショップで売る」であり、60代以上が高いのは、「リメイクして着用する」である。

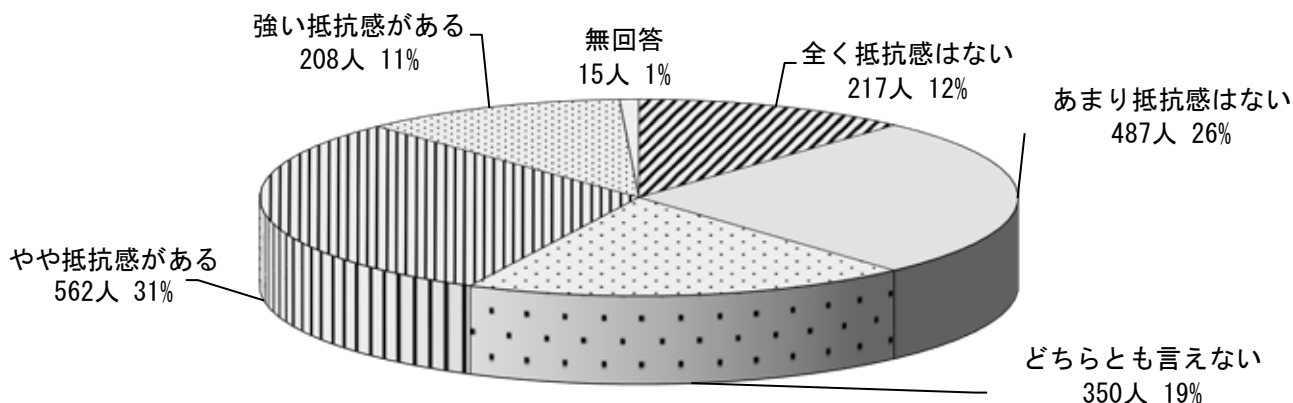
女性が高いのは、「可燃ごみとして捨てる」「人にあげたり、寄付をする」である。

	年代別／男女別	人数	項目						
			可燃ごみとして捨てる	いたんすなどにしまっている	人にあげたり、寄付をする	フリマアプリやリサイクルショップで売る	地域や店頭での資源回収に出す	リメイクして着用する	その他
年代別	20歳未満	204人	71(35%)	124(61%)	95(47%)	58(28%)	17(8%)	8(4%)	5(2%)
	20代	296人	152(51%)	136(46%)	97(33%)	91(31%)	27(9%)	9(3%)	6(2%)
	30代	175人	116(66%)	81(46%)	37(21%)	65(37%)	21(12%)	5(3%)	5(3%)
	40代	251人	170(68%)	107(43%)	68(27%)	72(29%)	48(19%)	6(2%)	5(2%)
	50代	313人	202(65%)	173(55%)	57(18%)	67(21%)	70(22%)	12(4%)	7(2%)
	60代	277人	196(71%)	157(57%)	57(21%)	41(15%)	60(22%)	29(10%)	10(4%)
	70歳以上	319人	200(63%)	170(53%)	77(24%)	24(8%)	63(20%)	48(15%)	17(5%)
	無回答	4人	2(50%)	0(0%)	0(0%)	1(25%)	1(25%)	0(0%)	1(25%)
男女別	男性	566人	299(53%)	293(52%)	125(22%)	119(21%)	78(14%)	18(3%)	20(4%)
	女性	1,190人	765(64%)	612(51%)	345(29%)	281(24%)	218(18%)	94(8%)	32(3%)
	回答しない	7人	3(43%)	4(57%)	3(43%)	0(0%)	2(29%)	1(14%)	0(0%)
	無回答	76人	42(55%)	39(51%)	15(20%)	19(25%)	9(12%)	4(5%)	4(5%)
	全体	1,839人	1109(60%)	948(52%)	488(27%)	419(23%)	307(17%)	117(6%)	56(3%)

問8 中古衣服・古着について、あなたの感覚に最も近いものは、どれですか。
(1つだけ)

(1)全体では

「全く抵抗感はない」12%、「あまり抵抗感はない」26%、合わせて38%、「どちらとも言えない」19%。
「やや抵抗感がある」31%、「強い抵抗感がある」11%、合わせて42%である。



(2)年代別・男女別では

「全く抵抗感はない」「あまり抵抗感はない」を合わせて高いのは、20代以下である。「やや抵抗感がある」「強い抵抗感がある」を合わせて高いのは、50代、70歳以上である。
「全く抵抗感はない」「あまり抵抗感はない」を合わせて、男性の方が高い。

年代別 ／ 男女別	人数	項目					
		は全く抵抗感	感あはまなり抵抗	言どえちなら	がややあ抵抗感	が強い抵抗感	無回答
20歳未満	204人	41(20%)	65(32%)	40(20%)	43(21%)	14(7%)	1(0%)
20代	296人	50(17%)	98(33%)	54(18%)	66(22%)	25(8%)	3(1%)
30代	175人	23(13%)	50(29%)	30(17%)	47(27%)	25(14%)	0(0%)
40代	251人	29(12%)	61(24%)	57(23%)	72(29%)	30(12%)	2(1%)
50代	313人	16(5%)	71(23%)	64(20%)	113(36%)	47(15%)	2(1%)
60代	277人	27(10%)	68(25%)	49(18%)	97(35%)	33(12%)	3(1%)
70歳以上	319人	31(10%)	72(23%)	56(18%)	122(38%)	34(11%)	4(1%)
無回答	4人	0(0%)	2(50%)	0(0%)	2(50%)	0(0%)	0(0%)
男性	566人	97(17%)	170(30%)	97(17%)	145(26%)	53(9%)	4(1%)
女性	1,190人	114(10%)	292(25%)	230(19%)	396(33%)	147(12%)	11(1%)
回答しない	7人	0(0%)	4(57%)	0(0%)	1(14%)	2(29%)	0(0%)
無回答	76人	6(8%)	21(28%)	23(30%)	20(26%)	6(8%)	0(0%)
全体	1,839人	217(12%)	487(26%)	350(19%)	562(31%)	208(11%)	15(1%)

3. 衣服の大量廃棄を生まないために

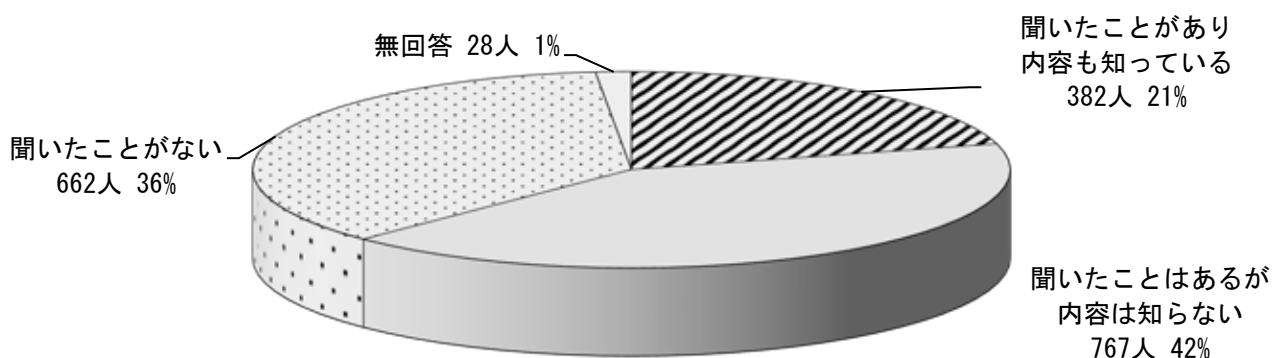
問9 「サステナブルファッション※」という言葉を知っていますか。(1つだけ)

※ サステナブルファッションとは、衣服の生産、着用、廃棄のプロセスにおいて、持続可能であることを目指して、生態系を含めた地球環境や関わる人・社会に配慮した取組みのことです。

(1) 全体では

「聞いたことがあり、内容も知っている」21%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」42%である。

「聞いたことがない」36%である。



(2) 年代別・男女別では

70歳以上は、「聞いたことがない」が高い。

男性は、「聞いたことがない」が高い。

	年代別／男女別	人数	項目			
			内容も知ることがあり、	聞いたことは知らない	聞いたことがない	無回答
年代別	20歳未満	204人	30(15%)	91(45%)	81(40%)	2(1%)
	20代	296人	63(21%)	133(45%)	96(32%)	4(1%)
	30代	175人	46(26%)	76(43%)	52(30%)	1(1%)
	40代	251人	60(24%)	113(45%)	75(30%)	3(1%)
	50代	313人	69(22%)	138(44%)	103(33%)	3(1%)
	60代	277人	64(23%)	111(40%)	99(36%)	3(1%)
	70歳以上	319人	49(15%)	104(33%)	154(48%)	12(4%)
	無回答	4人	1(25%)	1(25%)	2(50%)	0(0%)
男女別	男性	566人	104(18%)	217(38%)	240(42%)	5(1%)
	女性	1,190人	268(23%)	518(44%)	383(32%)	21(2%)
	回答しない	7人	1(14%)	4(57%)	2(29%)	0(0%)
	無回答	76人	9(12%)	28(37%)	37(49%)	2(3%)
	全体	1,839人	382(21%)	767(42%)	662(36%)	28(2%)

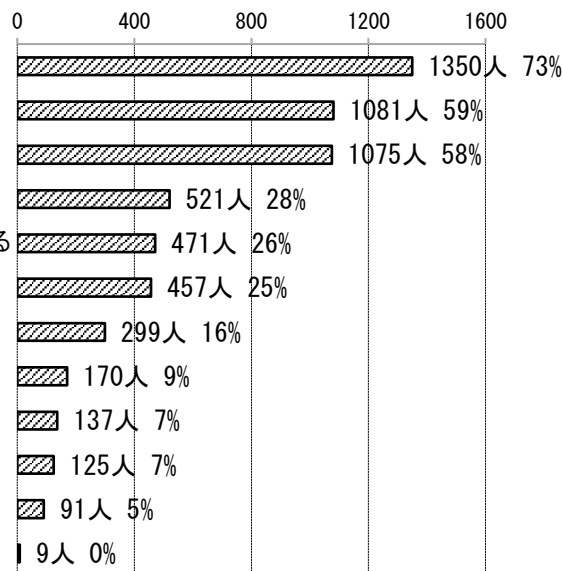
問10 サステナブルファッションの実現に向けた次の行動のうち、取り組みたいと思うものはどれですか。(5つまで)

(1)全体では

「本当に必要かどうかよく考えて購入する」73%、「手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しをする」59%、「長く着用できるものを買、大事に使う」58%である。

「バザーなどで古着を買う」と「マイクロプラスチックを流出させない」は7%、「レンタルサービスを利用する」5%と低い。

- ・ 本当に必要かどうかよく考えて購入する
- ・ 手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しをする
- ・ 長く着用できるものを買、大事に使う
- ・ 使い道がない場合は資源回収に出す
- ・ 処分するときは、買取店、古着回収、フリーマーケットなどを活用する
- ・ 処分するときのことも考えてみる
- ・ 家族や友人などで着回しする
- ・ リメイクを楽しむ
- ・ バザーやフリーマーケットなどで古着を買う
- ・ マイクロプラスチックを流出させない
- ・ レンタルサービスを利用する
- ・ その他



(2)年代別・男女別では

20歳未満が高いのは、「本当に必要かどうかよく考えて購入する」である。60代以上が高く、20代以下が低いのは、「使い道がない場合は資源回収に出す」である。20代、30代が高いのは、「処分するときは、買取店、古着回収、フリーマーケットなどを活用する」であり、20代以下で高いのは、「家族や友人などで着回しをする」である。

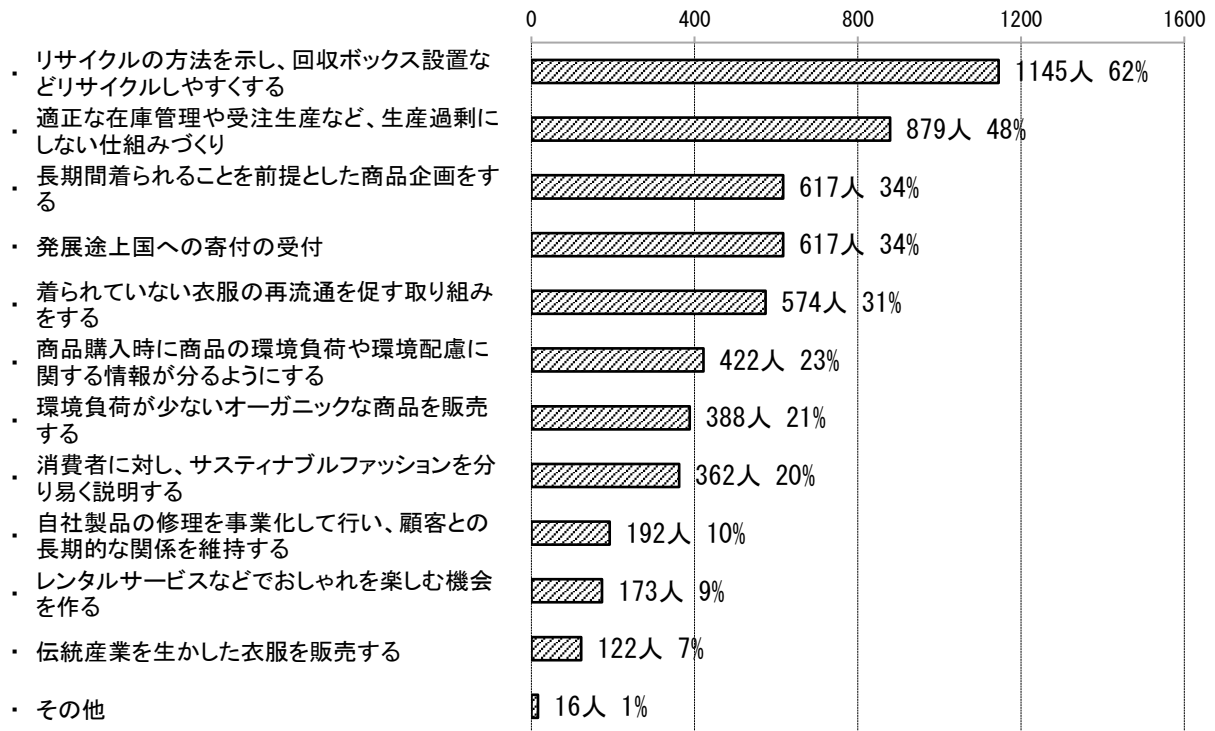
女性が高いのは、「手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しをする」「リメイクを楽しむ」である。

年代別／男女別	人数	項目												
		本当に必要かどうかよく考える	手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しをする	長く着用できるものを買、大事に使う	使い道がない場合は資源回収に出す	処分するときは、買取店、フリーマーケットなどを活用する	処分するときのことも考えてみる	家族や友人などで着回しする	リメイクを楽しむ	バザーやフリーマーケットなどで古着を買う	マイクロプラスチックを流出させない	レンタルサービスを利用する	その他	
年代別	20歳未満	204人	166(81%)	117(57%)	118(58%)	34(17%)	61(30%)	50(25%)	54(26%)	20(10%)	34(17%)	15(7%)	20(10%)	0(0%)
	20代	296人	218(74%)	179(60%)	174(59%)	42(14%)	95(32%)	61(21%)	64(22%)	17(6%)	28(9%)	19(6%)	13(4%)	0(0%)
	30代	175人	133(76%)	101(58%)	107(61%)	35(20%)	59(34%)	36(21%)	37(21%)	10(6%)	12(7%)	9(5%)	12(7%)	0(0%)
	40代	251人	197(78%)	154(61%)	156(62%)	71(28%)	67(27%)	49(20%)	32(13%)	13(5%)	16(6%)	10(4%)	18(7%)	0(0%)
	50代	313人	239(76%)	186(59%)	179(57%)	89(28%)	91(29%)	85(27%)	38(12%)	22(7%)	16(5%)	23(7%)	9(3%)	1(0%)
	60代	277人	189(68%)	158(57%)	164(59%)	116(42%)	58(21%)	87(31%)	29(10%)	34(12%)	17(6%)	24(9%)	10(4%)	3(1%)
	70歳以上	319人	204(64%)	185(58%)	175(55%)	134(42%)	38(12%)	88(28%)	45(14%)	54(17%)	14(4%)	25(8%)	9(3%)	5(2%)
男女別	無回答	4人	4(100%)	1(25%)	2(50%)	0(0%)	2(50%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
	男性	566人	391(69%)	281(50%)	330(58%)	145(26%)	139(25%)	126(22%)	73(13%)	25(4%)	57(10%)	51(9%)	33(6%)	2(0%)
	女性	1,190人	900(76%)	755(63%)	701(59%)	354(30%)	314(26%)	314(26%)	217(18%)	137(12%)	75(6%)	68(6%)	53(4%)	7(1%)
	回答しない	7人	4(57%)	4(57%)	3(43%)	2(29%)	2(29%)	2(29%)	0(0%)	1(14%)	0(0%)	2(29%)	1(14%)	0(0%)
	無回答	76人	55(72%)	41(54%)	41(54%)	20(26%)	16(21%)	15(20%)	9(12%)	7(9%)	5(7%)	4(5%)	4(5%)	0(0%)
全体	1,839人	1350(73%)	1081(59%)	1075(58%)	521(28%)	471(26%)	457(25%)	299(16%)	170(9%)	137(7%)	125(7%)	91(5%)	9(0%)	

問11 サステナブルファッションの実現のために、事業者に望むことは何ですか。(5つまで)

(1)全体では

「リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」62%、「適正な在庫管理や受注生産など生産過剰にしない仕組みづくり」48%、「長期間着られることを前提とした商品企画をする」「発展途上国への寄付の受付」ともに34%、「着られていない衣服の再流通を促す取り組みをする」31%である。



(2)年代別・男女別では

40代から60代が高いのは、「リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」であり、20歳未満が高いのは、「適正な在庫管理や受注生産など生産過剰にしない仕組みづくり」である。

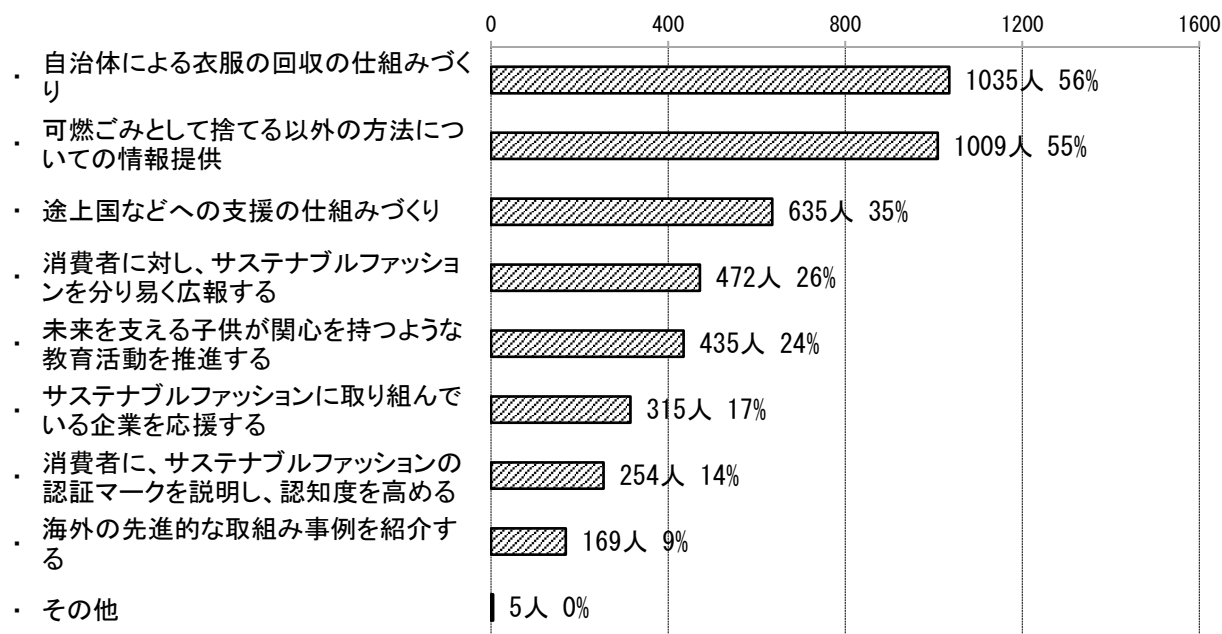
女性が高いのは、「リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」である。

年代別 ／ 男女別	人数	項目											
		リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする	適正な在庫管理や受注生産など、生産過剰にしない仕組みづくり	長期間着られることを前提とした商品企画をする	発展途上国への寄付の受付	着られていない衣服の再流通を促す取り組みをする	商品購入時に商品の環境負荷や環境配慮に関する情報が分かるようにする	環境負荷が少ないオーガニックな商品を販売する	消費者に対し、サステナブルファッションを分かり易く説明する	自社製品の修理を事業化して行い、顧客との長期的な関係を維持する	レンタルサービスなどでおしゃれを楽しむ機会を作る	伝統産業を生かした衣服を販売する	その他
20歳未満	204人	112(55%)	114(56%)	77(38%)	70(34%)	57(28%)	52(25%)	55(27%)	31(15%)	20(10%)	41(20%)	19(9%)	1(0%)
20代	296人	160(54%)	133(45%)	109(37%)	82(28%)	76(26%)	69(23%)	57(19%)	38(13%)	28(9%)	35(12%)	20(7%)	1(0%)
30代	175人	110(63%)	74(42%)	65(37%)	53(30%)	55(31%)	31(18%)	32(18%)	27(15%)	21(12%)	18(10%)	13(7%)	3(2%)
40代	251人	172(69%)	130(52%)	89(35%)	79(31%)	67(27%)	59(24%)	49(20%)	43(17%)	21(8%)	19(8%)	11(4%)	2(1%)
50代	313人	219(70%)	160(51%)	88(28%)	107(34%)	113(36%)	65(21%)	52(17%)	60(19%)	37(12%)	26(8%)	17(5%)	3(1%)
60代	277人	195(70%)	112(40%)	83(30%)	113(41%)	104(38%)	71(26%)	66(24%)	81(29%)	32(12%)	12(4%)	12(4%)	2(1%)
70歳以上	319人	175(55%)	155(49%)	104(33%)	111(35%)	102(32%)	75(24%)	75(24%)	82(26%)	33(10%)	22(7%)	30(9%)	4(1%)
無回答	4人	2(50%)	1(25%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)	0(0%)	2(50%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男性	566人	315(56%)	288(51%)	187(33%)	162(29%)	171(30%)	155(27%)	112(20%)	107(19%)	57(10%)	55(10%)	51(9%)	6(1%)
女性	1,190人	790(66%)	555(47%)	405(34%)	428(36%)	381(32%)	251(21%)	250(21%)	243(20%)	122(10%)	111(9%)	66(6%)	10(1%)
回答しない	7人	5(71%)	3(43%)	1(14%)	2(29%)	4(57%)	1(14%)	4(57%)	1(14%)	2(29%)	2(29%)	0(0%)	0(0%)
無回答	76人	35(46%)	33(43%)	24(32%)	25(33%)	18(24%)	15(20%)	22(29%)	11(14%)	11(14%)	5(7%)	5(7%)	0(0%)
全体	1,839人	1145(62%)	879(48%)	617(34%)	617(34%)	574(31%)	422(23%)	388(21%)	362(20%)	192(10%)	173(9%)	122(7%)	16(1%)

問12 サステナブルファッションの実現のために、行政に望むことは何ですか。
(3つまで)

(1)全体では

「自治体による衣服の回収の仕組みづくり」56%、「回収ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供」55%、「途上国などへの支援の仕組みづくり」35%である。



(2)年代別・男女別では

50代が高いのは、「自治体による衣服の回収の仕組みづくり」であり、20歳未満が高いのは、「途上国などへの支援の仕組みづくり」「サステナブルファッションに取り組んでいる企業を応援する」である。

男性が高いのは、「自治体による衣服回収の仕組みづくり」であり、女性が高いのは、「可燃ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供」である。

年代別／男女別	人数	項目									
		自治体による衣服の回収	可燃ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供	途上国などへの支援の仕組みづくり	消費者に対し、サステナブルファッションを分かり易く広報する	未来を支える子供が関心を持つような教育活動を推進する	サステナブルファッションに取り組んでいる企業を応援する	消費者に、サステナブルファッションの認証マークを説明し、認知度を高める	海外の先進的な取り組み事例を紹介する	その他	
年代別	20歳未満	204人	113(55%)	109(53%)	88(43%)	57(28%)	34(17%)	46(23%)	37(18%)	19(9%)	1(0%)
	20代	296人	171(58%)	138(47%)	105(35%)	61(21%)	51(17%)	52(18%)	38(13%)	21(7%)	0(0%)
	30代	175人	94(54%)	99(57%)	48(27%)	38(22%)	51(29%)	35(20%)	18(10%)	24(14%)	0(0%)
	40代	251人	149(59%)	136(54%)	86(34%)	50(20%)	65(26%)	43(17%)	25(10%)	20(8%)	0(0%)
	50代	313人	193(62%)	178(57%)	123(39%)	81(26%)	66(21%)	48(15%)	28(9%)	29(9%)	0(0%)
	60代	277人	159(57%)	165(60%)	92(33%)	83(30%)	71(26%)	43(16%)	50(18%)	28(10%)	3(1%)
	70歳以上	319人	154(48%)	182(57%)	92(29%)	101(32%)	97(30%)	47(15%)	58(18%)	28(9%)	1(0%)
	無回答	4人	2(50%)	2(50%)	1(25%)	1(25%)	0(0%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	566人	338(60%)	269(48%)	205(36%)	150(27%)	124(22%)	98(17%)	83(15%)	52(9%)	2(0%)
	女性	1,190人	655(55%)	697(59%)	408(34%)	297(25%)	292(25%)	201(17%)	157(13%)	112(9%)	3(0%)
	回答しない	7人	3(43%)	4(57%)	2(29%)	4(57%)	1(14%)	2(29%)	1(14%)	1(14%)	0(0%)
	無回答	76人	39(51%)	39(51%)	20(26%)	21(28%)	18(24%)	14(18%)	13(17%)	4(5%)	0(0%)
全体	1,839人	1035(56%)	1009(55%)	635(35%)	472(26%)	435(24%)	315(17%)	254(14%)	169(9%)	5(0%)	

4. 参考データ

(1) 問5「衣服の着用状況」と、問7「不用になった衣服の取扱状況」の比較

「すべて着用している」人は、「フリマアプリやリサイクルショップで売る」とする割合が高く、「半分ほど着用している」「あまり着用していない」人は、「たんすなどにしまっている」割合が高い。

問5 着用状況 （1つだけ） （お持ちの 衣服の 聞き日常 し）	人数	問7 着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っていますか。(3つまで)							
		フリマ アプリ で売る	リ メイ クして 着用する	出 地 域 や 店 頭 で の 資 源 回 収 に	人 に あ げ た り 、 寄 付 を する	たん す な ど に し ま つ て い る	可 燃 ご み と し て 捨 てる	そ の 他	無 回 答
すべて着用している	147人	46(31%)	12(8%)	19(13%)	45(31%)	36(24%)	75(51%)	4(3%)	2(1%)
おおむね着用している	955人	224(23%)	63(7%)	158(17%)	288(30%)	448(47%)	551(58%)	35(4%)	8(1%)
半分ほど着用している	626人	133(21%)	37(6%)	116(19%)	140(22%)	386(62%)	410(65%)	15(2%)	2(0%)
あまり着用していない	101人	15(15%)	5(5%)	13(13%)	14(14%)	74(73%)	69(68%)	2(2%)	1(1%)
無回答	10人	1(10%)	0(0%)	1(10%)	1(10%)	4(40%)	4(40%)	0(0%)	2(20%)
全体	1,839人	419(23%)	117(6%)	307(17%)	488(27%)	948(52%)	1109(60%)	56(3%)	15(1%)

(2) 問5「衣服の着用状況」と、問8「中古衣服・古着についての感覚」の比較

「すべて着用している」人は、「全く抵抗感はない」とする割合が高い。

問5 着用状況 （1つだけ） （お持ちの 衣服の 聞き日常 し）	人数	問8 中古衣服・古着について、あなたの感覚に最も近いものは、どれですか。(1つだけ)					
		全 く 抵 抗 感 は な い	い あ ま り 抵 抗 感 は な い	い ど ち ら と も 言 え な い	や や 抵 抗 感 が あ る	強 い 抵 抗 感 が あ る	無 回 答
すべて着用している	147人	37(25%)	28(19%)	31(21%)	31(21%)	19(13%)	1(1%)
おおむね着用している	955人	125(13%)	252(26%)	201(21%)	275(29%)	92(10%)	10(1%)
半分ほど着用している	626人	46(7%)	176(28%)	104(17%)	216(35%)	82(13%)	2(0%)
あまり着用していない	101人	9(9%)	27(27%)	13(13%)	37(37%)	14(14%)	1(1%)
無回答	10人	0(0%)	4(40%)	1(10%)	3(30%)	1(10%)	1(10%)
全体	1,839人	217(12%)	487(26%)	350(19%)	562(31%)	208(11%)	15(1%)

(3)問8「中古衣服・古着についての感覚」と、問10「サステナブルファッションの実現のために取り組みたいもの」の比較

「全く抵抗感はない」人は、「バザーやフリーマーケットなどで古着を買う」「レンタルサービスを利用する」「処分するときは、買取店、古着回収、フリーマーケットなどを活用する」割合が高い。

問8 中古衣服・古着について、どれですか。あなた (1つだけ)	人数	問10 サステナブルファッションの実現に向けた次の行動のうち、取り組みたいと思うものはどれですか。(5つ)												
		と手に持ち点検・見直しをする	本当に必要かどうかよく考えて購入する	長く着用できるものを買う、大事に使う	バザーやフリーマーケットなどで古着を買う	レンタルサービスを利用する	処分するときのことも考えてみる	マイクログラスチックを流出させない	家族や友人などで着回しする	フリママーケットなどは活用する	リメイクを楽しむ	使い道がない場合は資源回収に出す	その他	無回答
全く抵抗感はない	217人	116 53%	147 68%	128 59%	45 21%	23 11%	53 24%	20 9%	44 20%	70 32%	19 9%	42 19%	1 0%	3 1%
あまり抵抗感はない	487人	270 55%	355 73%	284 58%	63 13%	21 4%	115 24%	33 7%	93 19%	145 30%	53 11%	113 23%	1 0%	4 1%
どちらとも言えない	350人	215 61%	255 73%	209 60%	17 5%	22 6%	80 23%	20 6%	52 15%	87 25%	29 8%	109 31%	3 1%	4 1%
やや抵抗感がある	562人	362 64%	434 77%	337 60%	9 2%	15 3%	166 30%	37 7%	79 14%	124 22%	57 10%	190 34%	1 0%	4 1%
強い抵抗感がある	208人	115 55%	157 75%	116 56%	2 1%	10 5%	40 19%	15 7%	30 14%	44 21%	12 6%	66 32%	3 1%	1 0%
無回答	15人	3 20%	2 13%	1 7%	1 7%	0 0%	3 20%	0 0%	1 7%	1 7%	0 0%	1 7%	0 0%	10 67%
全体	1,839人	1081 59%	1350 73%	1075 58%	137 7%	91 5%	457 25%	125 7%	299 16%	471 26%	170 9%	521 28%	9 0%	26 1%

(4)問9「サステナブルファッションの認知度」と、問7「不用になった衣服の取扱状況」の比較

「聞いたことがあり、内容も知っている」人は、「フリマアプリやリサイクルショップで売る」割合が高い。

「聞いたことがない」人は、「可燃ごみとして捨てる」割合が高い。

問9 「サステナブルファッション」を知っていますか。(1つだけ)	人数	問7 着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っていますか。(3つまで)							
		フリマアプリやリサイクルショップで売る	リメイクして着用する	地域や店頭での資源回収	人にあげたり、寄付をする	たんすなどにしまっている	可燃ごみとして捨てる	その他	無回答
聞いたことがあり、内容も知っている	382人	124(32%)	35(9%)	73(19%)	101(26%)	178(47%)	214(56%)	15(4%)	0(0%)
聞いたことはあるが、内容は知らない	767人	181(24%)	46(6%)	135(18%)	227(30%)	407(53%)	458(60%)	21(3%)	1(0%)
聞いたことがない	662人	113(17%)	35(5%)	95(14%)	153(23%)	357(54%)	427(65%)	20(3%)	4(1%)
無回答	28人	1(4%)	1(4%)	4(14%)	7(25%)	6(21%)	10(36%)	0(0%)	10(36%)
全体	1,839人	419(23%)	117(6%)	307(17%)	488(27%)	948(52%)	1109(60%)	56(3%)	15(1%)

(5) 問9「サステナブルファッションの認知度」と、問10「サステナブルファッションの実現のために取り組みたいもの」の比較

「聞いたことがあり、内容も知っている」人は、「長く着用しているものを買ひ、大事に使う」割合が高い。

問9 「サステナブルファッション」という言葉を知っていますか。(1つだけ)	人数	問10 サステナブルファッションの実現に向けた次の行動のうち、取り組みたいと思うものはどれですか。(5つまで)												
		節制 手ご ごとの に点検 ・見直 しをす る	入本 手に 必要 かど うか よく 考え て購 入す る	長く 着用 でき るも のを 買ひ 、大 事 に 使 う	古着 を買 う	パザ ーや フリー マー ケッ トな どで	レン タル サー ビス を利 用す る	処分 する とき のこ とも 考え てみ る	マイ クロ プラ スチ ック を流 出さ せ ない	家族 や友 人な どで 着回 しす る	リメ イク を楽 しむ	使 い道 がな い場 合は 資源 回収 に出 す	そ の 他	無 回 答
聞いたことがあり、内容も知っている	382人	234 61%	296 77%	244 64%	29 8%	18 5%	109 29%	42 11%	59 15%	114 30%	43 11%	105 27%	3 1%	4 1%
聞いたことはあるが、内容は知らない	767人	475 62%	577 75%	460 60%	56 7%	45 6%	201 26%	44 6%	123 16%	203 26%	77 10%	202 26%	1 0%	1 0%
聞いたことがない	662人	362 55%	468 71%	367 55%	50 8%	27 4%	146 22%	39 6%	114 17%	153 23%	48 7%	211 32%	4 1%	9 1%
無回答	28人	10 36%	9 32%	4 14%	2 7%	1 4%	1 4%	0 0%	3 11%	1 26%	2 7%	3 11%	1 4%	12 43%
全体	1,839人	1081 59%	1350 73%	1075 58%	137 7%	91 5%	457 25%	125 7%	299 16%	471 26%	170 9%	521 28%	9 0%	26 1%

(6) 問9「サステナブルファッションの認知度」と、問11「サステナブルファッションの実現のため事業者に望むこと」の比較

「聞いたことがあり、内容も知っている」人は、「生産過剰にしない仕組みづくり」「回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」「商品購入時に環境配慮に関する情報が分かるようにする」ことを望む割合が高い。

問9 「サステナブルファッション」という言葉を知っていますか。(1つだけ)	人数	問11 サステナブルファッションの実現のために、事業者に望むことは何ですか。(5つまで)													
		適正 な生 産過 剰に しな い仕 組 みづ くり	リサ イクル しやす くす る	配 品購 入時 に情 報が 分か るよ うに す	楽 しむ 機会 を作 る	レン タル サー ビス など でお しや れを	品 企 画を する	長 期間 着ら れる こと を前 提と した 商	顧 客と の長 期的 な関 係を 維持 して 行い 、	自 社製 品の 修理 を事 業化 して 行い 、	取 り組 み をす る	品 環 境負 荷が 少な い	伝 統産 業を 生か した 衣服 を販 売す る	発 展途 上国 への 寄付 の受 付	消 費者 に對 し、 サス テナ ブル ファ ッ シ ョ ン を分 り易 く説 明す る
聞いたことがあり、内容も知っている	382人	214 56%	263 69%	108 28%	33 9%	138 36%	54 14%	129 34%	93 24%	32 8%	128 34%	63 16%	3 1%	6 2%	
聞いたことはあるが、内容は知らない	767人	377 49%	475 62%	173 23%	83 11%	278 36%	78 10%	239 31%	172 22%	49 6%	272 35%	165 22%	6 1%	5 1%	
聞いたことがない	662人	281 42%	395 60%	137 21%	55 8%	196 30%	58 9%	196 30%	116 18%	39 6%	209 32%	129 19%	7 1%	15 2%	
無回答	28人	7 25%	12 43%	4 14%	2 7%	5 18%	2 7%	10 36%	7 25%	2 7%	8 29%	5 18%	0 0%	6 21%	
全体	1,839人	879 48%	1145 62%	422 23%	173 9%	617 34%	192 10%	574 31%	388 21%	122 7%	617 34%	362 20%	16 1%	32 2%	

(7) 問8「中古衣服・古着についての感覚」を、年代別・男女別に詳しく見ると

「全く抵抗感はない」に関しては30代以下の男性が高く、女性は全体的に低い。「やや抵抗感がある」に関しては逆の傾向が見られる。「強い抵抗感がある」に関しては特に20代男性が低く、20歳未満の女性、20歳未満の男性が続く一方、30代と50代の女性が高い。

年代別 男女別	人数	問8 中古衣服・古着について、あなたの感覚に最も近いものは、どれですか。(1つだけ)						
		は全く抵抗感	感あはまなり抵抗	言どえちならいとも	がややあ抵抗感	が強い抵抗感	無回答	
男性	20歳未満	87人	20(23%)	30(34%)	15(17%)	15(17%)	7(8%)	0(0%)
	20代	120人	32(27%)	38(32%)	20(17%)	23(19%)	6(5%)	1(1%)
	30代	51人	11(22%)	19(37%)	7(14%)	8(16%)	6(12%)	0(0%)
	40代	84人	13(15%)	26(31%)	15(18%)	21(25%)	8(10%)	1(1%)
	50代	97人	6(6%)	29(30%)	18(19%)	34(35%)	10(10%)	0(0%)
	60代	76人	11(14%)	15(20%)	16(21%)	24(32%)	9(12%)	1(1%)
	70歳以上	49人	4(8%)	12(24%)	6(12%)	19(39%)	7(14%)	1(2%)
	無回答	2人	0(0%)	1(50%)	0(0%)	1(50%)	0(0%)	0(0%)
女性	20歳未満	108人	19(18%)	32(30%)	22(20%)	28(26%)	6(6%)	1(1%)
	20代	157人	16(10%)	54(34%)	30(19%)	38(24%)	17(11%)	2(1%)
	30代	111人	11(10%)	26(23%)	18(16%)	37(33%)	19(17%)	0(0%)
	40代	156人	15(10%)	33(21%)	37(24%)	49(31%)	21(13%)	1(1%)
	50代	212人	10(5%)	41(19%)	46(22%)	77(36%)	36(17%)	2(1%)
	60代	197人	16(8%)	51(26%)	31(16%)	73(37%)	24(12%)	2(1%)
	70歳以上	249人	27(11%)	55(22%)	46(18%)	94(38%)	24(10%)	3(1%)
	無回答	0人	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)
全体	1,839人	217(12%)	487(26%)	350(19%)	562(31%)	208(11%)	15(1%)	

(8) 問9「サステナブルファッションの認知度」と、問3「衣服を購入の際に重視すること」の比較

サステナブルファッションを「聞いたことがあり、内容も知っている」人は、衣服を購入する際に、「環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用」「手入れのしやすさ」を重視している割合が高い。

問9 「サステナブルファッション」という言葉を知っていますか。(1つだけ)	人数	問3 日常着用する衣服を購入する時に、重視することは何ですか。(5つまで)											
		価格	好みのデザインやサイズ	トレンド・流行	着心地の良さ	ブランド・メーカー名	着回しやすさ	耐久性・修繕可能なこと	環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用	のリサイクルやリメイクのしやすさ	手入れのしやすさ	その他	無回答
聞いたことがあり、内容も知っている	382人	322 84%	318 83%	84 22%	266 70%	73 19%	199 52%	54 14%	32 8%	11 3%	175 46%	5 1%	0 0%
聞いたことはあるが、内容は知らない	767人	659 86%	623 81%	152 20%	514 67%	165 22%	392 51%	114 15%	25 3%	12 2%	319 42%	5 1%	4 1%
聞いたことがない	662人	573 87%	539 81%	106 16%	458 69%	122 18%	304 46%	103 16%	21 3%	12 2%	252 38%	5 1%	0 0%
無回答	28人	22 79%	18 64%	3 11%	17 61%	3 11%	15 54%	3 11%	1 4%	0 0%	10 36%	0 0%	1 4%
全体	1,839人	1576 86%	1498 81%	345 19%	1255 68%	363 20%	910 49%	274 15%	79 4%	35 2%	756 41%	15 1%	5 0%

IV まとめ

1 調査結果のまとめ

(1) サステナブルな生活に関する意識について

「問1 『衣』『食』『住』の日常生活で、意識して行動しているサステナブルな項目」 について

全体では

- ・「常時意識して行動している」と「概ね意識して行動している」を合わせた割合で見ると、「衣」では、「手入れをして大切に使うこと」77%、「必要性の有無」75%であり、「環境負荷の少ない処分方法」は49%となっている。
- ・「食」では、「食品ロスの削減」88%、「ごみの削減」77%、「地産地消」62%であり、「フェアトレード」は32%となっている。
- ・「住」では、「節電、節水」87%、「宅配の再配達防止」66%、「地域の清掃活動」60%であり、「省エネ家電や太陽光発電など」は55%となっている。
- ・一方、「あまり意識していない」と「全く意識していない」を合わせた割合が高いのは、「衣」では、「環境負荷の少ない処分方法」49%、「食」では、「フェアトレード」66%、「住」では、「省エネ家電や太陽光発電など」43%となっている。

年代別・男女別では

- ・「常時意識して行動している」と「概ね意識して行動している」を合わせた割合で見ると、「衣」について、20歳未満が高いのは、「必要性の有無」90%、「購入・入手方法」80%、「手入れをして大切に使うこと」80%であり、60代が高いのは、「手入れをして大切に使う」82%、70歳以上が高いのは、「環境負荷の少ない処分方法」64%である。
- ・「食」については、50代、60代は「食品ロスの削減」が高い。
- ・「住」については、60代以上は「地域の清掃活動」が高い。
- ・女性は、「省エネ家電や太陽光発電など」を除く項目で高く、「地域の清掃活動」は、男女差がない。

このことから

- ・日常、身近に取り組める項目については、意識して行動しているが、一方で、取り組みに当たって、学びや情報収集、経費などが必要な項目については、あまり意識的に行動していない傾向が見られる。

- ・また、20歳未満の若い世代は、「衣」に関して、「必要性の有無」や「手入れをして大切に使うこと」を意識しており、堅実な生活様式の傾向が見られる。
- ・今後、私たちの日常の生活を、環境に負荷をかけない生活様式に変えていくためには、現状からのステップアップをめざして、学びや情報収集に努めることも必要と思われる。

(2) 衣服・ファッションについて

「問2 衣服による環境負荷等の社会的課題の中で、知っている項目」について

全体では

- ・知っている項目としては、「衣服が廃棄される場合、ほとんどは焼却・埋め立て処分されている」48%、「天然繊維や合成繊維の原材料調達から製造段階までに、二酸化炭素排出や大量の水消費など大きな環境負荷がかかっている」40%である。
- ・一方で、「1年間1回も着られていない服が、一人当たり25枚もある」は11%、「家庭から手放される衣服のうち、リユース・リサイクルされる割合は約34%である」は8%と、低くなっている。

年代別・男女別では

- ・「衣服がごみとして廃棄される場合、ほとんどは焼却・埋め立て処分されている」は、60代以上が、59%~61%と高く、20代が、33%と低い。
- ・20歳未満が高いのは、「繊維の原材料調達から製造段階までに、大きな環境負荷がかかっている」50%である。
- ・男女別では、あまり差がない。

このことから

- ・衣服による環境負荷の課題について、6割の人はあまり知らないことが分かる。中でも、1年間1回も着ていない服や、リユース・リサイクルの割合など、身近な情報については、特に知られていない傾向が見受けられる。

「問3 日常着用する衣服を購入するときに、重視すること」について

全体では

- ・購入の際重視するのは、高い順に、「価格」86%、「好みのデザインやサイズ」81%、「着心地の良さ」68%、「着回しのしやすさ」49%、「手入れのしやすさ」41%である。
- ・一方、「耐久性・修繕可能なこと」は15%、「環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用」は4%、「リサイクルやリメイクのしやすさ」は2%と低い。

年代別・男女別では

- ・20代以下は、「好みのデザインやサイズ」、「着回し・コーディネートしやすい」、「ブランド・メーカー名」、「トレンド・流行」を重視し、20歳未満で見ると、「価格」、「好みのデザインやサイズ」を重視している。
- ・60代以上は、「着心地の良さ」、「手入れのしやすさ」を重視している。
- ・女性が高いのは、「着心地の良さ」、「着回し・コーディネートしやすい」、「手入れのしやすさ」であり、男性が高いのは「ブランド・メーカー名」、「耐久性・修繕可能なこと」である。

このことから

- ・衣服の購入に当たっては、「価格」や「好みのデザインやサイズ」が重視されている。
- ・サステナブルファッションに関連する要素を見ると、「着回しのしやすさ」や「手入れのしやすさ」を重視する人はある程度いるが、一方で、「環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用」や、「リサイクルやリメイクのし易さ」を重視する人は少ないと言える。
- ・ただ、「問9 サステナブルファッションの認知度」と比較して見ると（18P掲載）、「サステナブルファッションの言葉を聞いたことがあり、内容も知っている」人は、「環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用」や、「手入れのしやすさ」を重視する割合が高い傾向が見られる。
- ・このため、サステナブルファッションの認知度を高め、環境に負荷をかけない具体的な行動について情報提供していくことが重要と思われる。

「問4 衣服を購入する主な手段」について

全体では

- ・「店舗購入」94%と高く、次いで「インターネットショッピング」47%である。
- ・一方、「インターネット中古市場」、「テレビショッピング」は2%と低い。

年代別・男女別では

- ・「店舗購入」は総じて高い。
- ・40代以下が高いのは、「インターネットショッピング」であり、60代以上は「カタログ通販」が高い。
- ・女性が高いのは、「カタログ通販」で、男性が高いのは、「インターネット中古市場」である。その他の購入手段については、男女差がほとんどない。

このことから

- ・衣服の購入手段は、店舗購入が圧倒的に多いが、これは、衣服は直接身に付けるものであることから、実際に触れてみて、試着等による確認が必要なためではないかと思われる。

「問5 手持ちの衣服の、日常の着用状況」について

全体では

- ・「すべて着用している」8%、「おおむね着用している」52%、合わせて60%である。
- ・「半分ほど着用している」は34%、「あまり着用していない」は5%である。

年代別・男女別では

- ・20歳未満が高いのは、「すべて着用している」、「おおむね着用している」である。
- ・40代以上が高いのは、「半分ほど着用している」であり、60代は「あまり着用していない」が高い。
- ・「すべて着用している」は男性が高く、「半分ほど着用している」は女性が高い。「おおむね着用している」は、男女差がない。

このことから

- ・20歳未満の人や男性については、「すべて着用している」が多く、手持ちの衣服を効率的に着回す、堅実な生活様式の傾向が見られる。

「問6 問5で『すべて着用している』と答えた人以外に聞いた、着ていない衣服についての理由」について

全体では

- ・「着る機会がなくなった」58%、「体型や好みが変わった」46%、「買ったが、自分に合わなかった」27%である。
- ・「たくさん持ちすぎている」は、18%、「もらい物などで、自分に合わない」は、12%である。

年代別・男女別では

- ・「着る機会がなくなった」は、60代以上が高く、20代以下が低い。
- ・20歳未満が高いのは、「買ったが自分に合わなかった」である。
- ・50代以上が高く、20歳未満が低いのは、「たくさん持ちすぎている」である。
- ・40代、50代が高いのは、「流行が変わった」である。
- ・女性が高いのは、「買ったが自分に合わなかった」、「流行が変わった」である。

このことから

- ・「着る機会がなくなった」、「流行が変わった」、「自分に合わなかった」、「たくさん持ちすぎている」といった理由で着ていない衣服については、まだ着られる衣服であることから、有効に活用または効率的に処分していくことで、環境負荷が軽減できると考えられる。

「問7 着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っているか」について

全体では

- ・可燃ごみとして捨てる」60%、「たんすなどにしまっている」52%である。
- 「地域や店頭での資源回収に出す」は17%、「リメイクして着用する」は6%である。

年代別・男女別では

- ・30代以上で高く、20代以下で低いのは、「可燃ごみとして捨てる」である。
- ・20代以下が高いのは「人にあげたり、寄付をする」である。
- ・20歳未満から40代が高いのは、「フリマアプリやリサイクルショップで売る」であり、60代以上が高いのは「リメイクして着用する」である。
- ・女性が高いのは、「可燃ごみとして捨てる」、「人にあげたり、寄付をする」である。

このことから

- ・不要になった衣服を、「可燃ごみとして捨てる」、「たんすなどにしまっている」以外に、効率的に活用する手法について、回収システムの構築など、具体的な取組みや情報提供が必要であると思われる。

(3) 衣服の大量廃棄を生まないために

「問8 中古衣服・古着についての感覚」について

全体では

- ・「全く抵抗感はない」12%、「あまり抵抗感はない」26%、合わせて38%である。
- ・「どちらとも言えない」19%である。
- ・「やや抵抗感がある」31%、「強い抵抗感がある」11%、合わせて42%である。

年代別・男女別では

- ・「全く抵抗感はない」と「あまり抵抗感はない」を合わせて高いのは、20代以下である。
- ・「やや抵抗感がある」と「強い抵抗感がある」を合わせて高いのは50代以上である。
- ・「全く抵抗感はない」と「あまり抵抗感はない」を合わせて高いのは、男性の方である。

このことから

- ・古着については、高齢層や女性に抵抗感があるが、若い世代や男性には抵抗感は少ない傾向があると言える。

「問9 『サステナブルファッション』という言葉を知っているか」について

全体では

- ・「聞いたことがあり、内容も知っている」21%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」42%である。
- ・「聞いたことがない」は36%である。

年代別・男女別では

- ・70歳以上は、「聞いたことがない」が高い。
- ・男性は、「聞いたことがない」が高い。

このことから

- ・サステナブルファッションの内容まで知っている人は2割程度と低く、特に、20歳未満と70歳以上では15%となっており、サステナブルファッションの認知度を高めていくことが必要と思われる。

「問10 サステナブルファッションの実現に向けた行動のうち取り組みたいと思うもの」について

全体では

- ・「本当に必要かどうかよく考えて購入する」73%、「手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しをする」59%、「長く着用できるものを買ひ、大事に使う」58%である。
- ・一方、「バザーなどで古着を買う」と「マイクロプラスチックを流出させない」は7%、「レンタルサービスを利用する」は5%と、低い。

年代別・男女別では

- ・全体で最も多い「本当に必要かどうかよく考えて購入する」は、20歳未満が特に81%と高くなっている。
- ・「使い道がない場合は資源回収に出す」は、60代以上が高く、30代以下が低い。
- ・「処分するときは、買取店、古着回収、フリーマーケットなどを活用する」は、20代、30代が高く、「家族や友人などで着回しする」は、20代以下が高い。
- ・全体的に低い「バザーやフリーマーケットなどで古着を買う」、「レンタルサービスを利用する」は、20歳未満では高くなっている。
- ・「手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しする」、「リメイクを楽しむ」は、女性が高い。

このことから、

- ・衣服は、必要性をよく考えて購入し、手持ちの服は季節ごとに点検・見直しし、大事に

使う、という堅実な取り組み傾向が見られる。

- ・一方、処分方法、古着やレンタルの利用などについては、年齢・性別により取り組みたい行動が異なる。

「問11 サステナブルファッションの実現のために、事業者に望むこと」について

全体では

- ・「リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」62%、「適正な在庫管理や受注生産など生産過剰にしない仕組みづくり」48%、「長期間着られることを前提とした商品企画をする」、「発展途上国への寄付の受付」とともに34%、「着られていない衣服の再流通を促す取り組みをする」31%である。

年代別・男女別では

- ・「リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」は、40代から60代が高く、「適正な在庫管理や受注生産など生産過剰にしない仕組みづくり」は、20歳未満が高い。
- ・「発展途上国への寄付の受付」は、60代が高く、「着られていない衣服の再流通を促す取り組みをする」は、50代・60代が高い。
- ・「環境負荷が少ないオーガニックな商品を販売する」、「レンタルサービスなどでおしゃれを楽しむ機会を作る」は、20歳未満が高く、「消費者に対し、サステナブルファッションを分かり易く説明する」は、60代以上が高い。
- ・「商品購入時に商品の環境負荷や環境配慮に関する情報が分かるようにする」は、男性が高い。

このことから

- ・「回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」と「衣服の再流通を促す取り組み」を望む割合が高く、事業者に、流通後着られなくなった衣服のリサイクルの仕組みづくりを求めている。
- ・また、「生産過剰にしない仕組みづくり」と「長期間着られる商品企画」を望む声も多く、衣服の生産・流通に当たっての適正化を求めている。
- ・さらに、消費者に対して、商品の環境配慮に関する情報を分かり易く表示し、説明することは、6割程度の人から求めている。

「問12 サステナブルファッションの実現のために、行政に望むこと」について

全体では

- ・「自治体による衣服の回収の仕組みづくり」56%、「回収ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供」55%、「途上国などへの支援の仕組みづくり」35%である。

年代別・男女別では

- ・50代が高いのは、「自治体による衣服の回収の仕組みづくり」であり、20歳未満が高いのは「途上国などへの支援の仕組みづくり」、「サステナブルファッションに取り組んでいる企業を応援する」である。
- ・男性が高いのは、「自治体による衣服回収の仕組みづくり」であり、女性が高いのは、「可燃ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供」である。

このことから

- ・行政に最も望むことは、「自治体による衣服の回収の仕組みづくり」、「可燃ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供」であると言える。
- ・次いで、「サステナブルファッションの分かり易い広報」、「サステナブルファッションの認証マークの認知度を高める広報」を望んでいると言える。

(4) 参考データ

① 問5「手持ちの衣服の着用状況」と、問7「着なくなって不用になった衣服の取扱い状況」とを比較すると

- ・「すべて着用している人」は、「フリマアプリやリサイクルショップで売る」とする割合が高く、「半分ほど着用している」人と「あまり着用していない」人は、「たんすなどにしまっている」、「可燃ごみとして捨てる」とする割合が高い。

② 問5「手持ちの衣服の着用状況」と、問8「中古衣服・古着についての感覚」とを比較すると

- ・「すべて着用している人」は、「全く抵抗感はない」とする割合が高い。

③ 問8「中古衣服・古着についての感覚」と、問10「サステナブルファッションの実現に向けて取り組みたいこと」とを比較すると

- ・「全く抵抗感はない」人は、「バザーやリサイクルショップなどで古着を買う」、「レンタルサービスを利用する」、「処分するときは、買取店、古着回収、フリーマーケットなどを活用する」割合が高い。

④ 問9「サステナブルファッションという言葉の認知度」と、問7「着なくなって不用になった衣服の取扱い」とを比較すると

- ・「サステナブルファッションという言葉聞いたことがあり、内容も知っている」人は、「フリマアプリやリサイクルショップで売る」割合が高い。
- ・「聞いたことがない」人は、「可燃ごみとして捨てる」割合が高い。

- ⑤ 問9「サステナブルファッションという言葉の認知度」と、問10「サステナブルファッションの実現に向けて、取り組みたいこと」とを比較すると
- ・「サステナブルファッションという言葉を知っている」と答えた人は、「長く着用できるものを買って、大切に使う」割合が高い。
- ⑥ 問9「サステナブルファッションという言葉の認知度」と、問11「サステナブルファッションの実現のために、事業者が望むこと」とを比較すると
- ・「サステナブルファッションという言葉を知っている」と答えた人は、「生産過剰にしない仕組みづくり」、「回収ボックス設置などリサイクルしやすくする」、「商品購入時に環境配慮に関する情報が分かるようにする」ことを望む割合が高い。
- ⑦ 年代別・男女別と問8「中古衣服・古着についての感覚」とを比較すると
- ・「全く抵抗感はない」に関しては、30代以下の男性が高く、女性は全体的に低い。
 - ・「やや抵抗感がある」に関しては、30代以下の男性が低い傾向が見られる。
 - ・「強い抵抗感がある」に関しては、20代以下の男性、20歳未満の女性が低く、一方、30代と50代の女性が低い傾向が見られる。
- ⑧ 問9「サステナブルファッションという言葉の認知度」と、問3「衣服を購入する際に重視すること」とを比較すると
- ・サステナブルファッションを「知っている」と答えた人は、衣服を購入する際に、「環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用」、「手入れのしやすさ」を重視している割合が高い。

2 今後の取組み

サステナブルファッションを推進していくために、生産・流通、購入・使用、廃棄・循環のそれぞれの段階で、消費者、事業者、行政が連携・協働して、持続可能な形で資源を利用する循環型経済への移行を目指すことが大切である。

(1) 消費者としての取組み

- ・サステナブルファッションについて理解を深めるため、まずは、衣服について、原材料調達・生産・使用・廃棄の各段階での環境負荷が社会的課題となっていることを理解し、その上で、衣服に関する日常の行動を、環境負荷の少ない生活様式に変えてい

く必要がある。

- ・具体的には、衣服による環境負荷等について、研修会等で学ぶとともに、消費生活研究グループ活動においても調査研究を進めるよう努めていきたい。
- ・また、衣服についての3R^{※1}を推進し、必要性をよく考えて購入し、大切に使う、不要になったら再利用を心がけるとともに、レンタルサービスの利用やお直し・リペアなど、衣服に関して使い捨てにしない、廃棄物を出さない行動様式に変えていくよう努めていきたい。

※「サステナブルファッションに向けた消費者行動18のヒント^{※2}」（消費者庁）参照

- ・また、衣服のリフォームは、従来から消費生活研究グループが取り組んでいる活動の一つであるが、今後は、若い世代を含む幅広い世代において、手軽に取り組めるような分かりやすい手法の研究や、情報提供にも努めていきたい。

(2) 事業者に対する要望

- ・回収ボックスの設置など消費者が気軽に出せる回収の仕組みづくりや、そうした取組みについての分かりやすい情報提供をお願いしたい。
- ・消費者が環境に配慮した製品を選択できるよう、環境負荷表示やリサイクル素材表示などについて、分かりやすく情報発信してほしい。
- ・製品企画の段階から、長期間着られるような商品企画、リサイクルや環境配慮素材など環境配慮型設計に努めてほしい。
- ・適量な供給になるよう、適正な在庫管理や受注生産、国内生産を心がけてほしい。
- ・事業者との意見交換会などの機会に、これらの要望を伝えていきたい。

(3) 行政に対する要望

- ・自治体による衣服の回収の仕組みづくり、可燃ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供をお願いしたい。
- ・サステナブルファッションについての分かりやすい広報や、サステナブルファッションの認証マークの周知など、言葉の認知度を高める取組みをお願いしたい。
- ・途上国への支援の仕組みづくりや、サステナブルファッションに取り組む企業の応援などに努めてほしい。
- ・子どもたちへの消費者教育の充実に努めてほしい。
- ・各種審議会の機会などを捉えて、行政に対して、これらの要望を伝えていきたい。

(参考) ※1 3R（スリーアール）とは、Reduce（リデュース） Reuse（リユース）
Recycle（リサイクル）の3つのRの総称である。

- ・ Reduce（リデュース）は、製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。耐久性の高い製品を選ぶ、使用頻度の少ないものはレンタルを利用することなども取組みのひとつである。
- ・ Reuse（リユース）は、使用済み製品を繰り返し使用すること。フリーマーケットにより不用品の再使用に努めることなども取組みのひとつである。
- ・ Recycle（リサイクル）は、廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効活用すること。不用になったものを地域や店頭での資源回収に出すなども取組みのひとつである。（出典：リデュース・リユース・リサイクル推進協議会）

※2 「サステナブルファッションに向けた消費者行動 18 のヒント～服を買う時から始まるサステナブルファッション習慣のすすめ」（消費者庁）

○買う時、選ぶ時のヒント

- ヒント1：本当にその服が必要かどうか、もう一度よく考えてみる
- ヒント2：長く着ることができるものを買う
- ヒント3：処分するときのことも考えてみる
- ヒント4：買うと決めたら服のストーリーにこだわる
- ヒント5：カスタムメイドでの購入を考えてみる
- ヒント6：バザーやフリーマーケットなどで古着を買う
- ヒント7：レンタルサービスを利用する
- ヒント8：メーカー売れ残り在庫販売での購入も考えてみる

○日々のお手入れや洗濯時などのヒント

- ヒント9：大事に使い長持ちさせる
- ヒント10：マイクロプラスチックを流出させない
- ヒント11：お直しやリペアで長く着られるようにする
- ヒント12：家族や友人同士で着まわす

○処分するときのヒント

- ヒント13：買取店、バザー・フリーマーケットを活用する
- ヒント14：お店などで古着の回収サービスを利用する
- ヒント15：寄付する
- ヒント16：リメイクを楽しむ
- ヒント17：どうしても使い道がない場合には資源回収に出す

○その他のヒント

- ヒント18：自宅のクローゼットやワードローブを確認して、不用品は定期的に処分・有効活用する

V 回答者の意見

1 設問ごとの「その他」の意見

問3 日常着用する衣服を購入する時に、重視することは何ですか。

- ・流行より自分の思いを大事にする (60代 女性)
- ・組成(繊維の種類) (40代 女性)
- ・素材、洗浄方法 (50代 女性)
- ・天然素材 (60代 女性)
- ・色 (70歳以上 女性)
- ・通気性、軽さ・機能性 (30代 男性)
- ・洗濯機で洗えること (50代 男性)
- ・家で洗えること (50代 女性)
- ・サイズ (50代 女性)

問4 衣服を購入する手段は主にどれですか。

- ・友人から頂く (60代 女性)
- ・友人から買う (70歳以上 女性)
- ・手作り (60代 女性)
- ・友人の手作り (60代 女性)
- ・今は買わない (70歳以上 男性)
- ・イベント (20代 男性)
- ・おさがり (40代 女性)
- ・知人の移動商店 (60代 女性)

問6 着ていない衣服についての理由をお聞かせください。

- ・洗濯で縮んだり型崩れなどがあるため (60代 女性)
- ・仕事が変わった (60代 男性)
- ・季節外れのアウターや冠婚葬祭の衣服だから (40代 女性他2名)
- ・肌触り、着心地がよくなかった (50代 女性他1名)
- ・子供が大きくなったら着てくれるかと思っている (40代 女性)
- ・仕分けがへたくそである (60代 女性)
- ・コロナ流行で外出しなくなった (60代 女性)
- ・古くなって破れたなど (50代 男性)
- ・古くなった (60代 男性)
- ・飾りが多くて、日常の着用に適さない (20歳未満 女性他2名)

- ・気に入っているのでよごしたくない（30代 男性）
- ・その服の存在を忘れている場合がある（50代 男性）
- ・着やすい服ばかり着てしまうため（50代 女性他1名）
- ・洗濯されている自分好みの服があるとその服ばかり着る（20代 男性）
- ・季節に合わない（20代 女性他3名）
- ・母が買ってくれたやや高級なものは、流行が変わっても保管している
（60代 女性）
- ・数年ですべて着用するようにしている（60代 男性）
- ・処分できない（70歳以上 女性）
- ・捨てたいが捨てる機会を逸している（60代 女性）
- ・保管用、消耗したら次に着用するため（40代 男性）
- ・組み合わせを考えるのが面倒（50代 男性）
- ・いつか着るかもと思い、処分に踏み切れない（50代 女性）
- ・直そうとしたが仕上がっていない（50代 女性）
- ・福袋に入っていて、自分に合わなかった（20歳未満 男性）
- ・タンスの下にあって目につかない（20歳未満 男性）
- ・着てないだけ、理由はない（20代 男性）

問7 着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っていますか。

- ・掃除道具として使ってから捨てる（40代 女性他24名）
- ・衣類の資源回収をしてほしい 他県から来ておどろいた。（70歳以上 女性）
- ・クッションカバーなど手芸品の布として使っている（30代 男性）
- ・校下の資源回収日に出す（70歳以上 女性）
- ・使えなくなるまで使い、布として作業に使う（70歳以上 男性）
- ・細かく切って紐にする（70歳以上 女性）
- ・学校のバザーに出す（70歳以上 女性）
- ・ぼろ布として再利用する（50代 男性）
- ・着用以外の再利用（30代 女性）
- ・小物などにリメイク（60代 女性）
- ・パジャマ代わりにしている（20代 男性）
- ・小さく切って、フライパンなどの油を取っている（20歳未満 男性）

問11 サステナブルファッションのために、事業者に望むことは何ですか。

- ・価格維持のための売れ残り商品をやめる（50代 男性）
- ・国内で生産できる衣服はすべて国内で生産・販売するようにする
（30代 男性）

- ・大量生産は大量残品となる（60代女性）
- ・日本国内で福祉施設や個人で必要としているところへ、安価または無料で譲るシステム 生活困窮や災害時など（70歳以上 女性）
- ・地域では衣類の資源回収がない（30代 女性）
- ・オーガニックな商品も求めやすい価格にしてほしい（50代 女性他1名）
- ・サステナブルファッション対象のものと通常のモノの価格が、かい離しないような仕組みづくり（30代 男性）
- ・長期使用するためのアドバイス、リサイクルや洗い方など（50代 女性）
- ・リサイクルしたら、ポイントを価格で還元してほしい（40代 女性）
- ・着ない服を回収し、回収された側に割引のサービスをする（20代 男性）

問12 サステナブルファッションの実現のために行政に望むことは何ですか。

- ・もっとリサイクルができる技術や機会を工夫する。（60代 女性）
- ・事業者支援金をわたす（20歳未満 男性）

2 自由意見

サステナブルファッションについてあなたの考えを自由に記入してください。

○サステナブルファッションの認知度について

- ・サステナブルファッションという言葉は初めて聞いた。この機会に関心をもって取り組んでいきたい。（20歳未満 女性他23名）
- ・一般消費者のサステナブルファッションについての認知度を高める取り組みをもっと進め、情報をもっと流してほしい。（TVやラジオ、新聞等）そして、どの世代の人たちにも知ってほしい。（若い人たちは、いろいろな発想ができる可能性が大いにある。）（70歳以上 男性他26名）
- ・大切なことと分っていたが、いきなり横文字で表記されると身構えてしまう感じがするので、もっと親しみやすい表現で、この概念や取り組みなどを紹介し、周知していただくとうい。（40代 女性他3名）
- ・服を自分のためだけに買うのではなく、その先のことも考えて買うことが大切だと知った。（20歳未満 女性他1名）
- ・持続可能にするためには、未来につなぐことが前提だから、流行しているものを紹介するときに、その服はどのようにサステナブルファッションになっているかということをつけ加えると、買う人も意識するようになると思う。（20代 男性）
- ・「ファッションは楽しいものなので、楽しみながら取り組めるとよい。」という甘えた考えがあると一向に進まないだろう。楽しみながらではなく、金銭的、実利的なメリットを与えてくれるとより取り組みたくなると感じた。（20代 男性）
- ・サステナブルファッションの実現に向けて、衣服の無駄使いをせず、長く大切に扱うことが必要である。（20歳未満 男性）
- ・SDGsと同じように、その取り組みの実現には多くの人の認知度を上げることが必要と考えるため、できるだけ多くの人に理解してもらえるような広報を行うことが大切である。（20代 男性）
- ・衣服の製造の際に環境負荷がかかっていることを初めて知った。「サステナブルファッション」はこういった環境負荷を軽減する取り組みなので、今後、国全体として取り組んでほしいと思った。（20歳未満 男性）
- ・衣服の廃棄を生まないことで限られた資源を有効活用できるため、援助したいと思える良い活動であると感じた。（20代 男性）
- ・衣服をむやみに捨てずに使い回して使用し続けることである程度実現できると思う。（20歳未満 男性他1名）
- ・アンケートに答えていたら、あまり着用していない衣服が多いことに気づけた。今後の衣服のことについて見つめ直す機会になったので、大いに広めてほしい。

(30代 男性他2名)

- ・個人の意識改革が必要である。(30代)
- ・言葉そのものにまだなじみがないが、意外と暮らしの中に浸透してきていると思う。これからは意識して、サステナブルファッションを取り入れていきたい。

(50代 女性)

- ・今回のアンケートで、少しサステナブルファッションについて知ることができた。古着には抵抗があるので、自分にできることとして、長く使用可能な無駄のない服選びを心掛けたいと思う。(50代 女性)

○大量生産、大量消費について

- ・衣類に限らず、大量に作って大量に売ろうという「もうけ」だけを考える時代は終わったと思う。(新自由主義はNG!) 公正に作り、公正に売り、利益は公に還元する。そうした社会のしくみ作り(税制なども)も急務と考える。(50代 女性)
- ・物があふれている。一年きりで使い捨てるような商品を作っているメーカーに、とりつかれている消費者も考えるべき。よい商品を大切に長く使う(多少、高価であっても)習慣を取り戻したい!(70歳以上 女性)
- ・最近のファストファッション、安く買えるのはいいが、生地もペラペラ、裁縫も適当、1シーズンどころか、1回か2回着たら、もう着たくなるようなものもある。昔のように、しっかりとした製品がほしいと思うと高くて手が出ない。でも昔買った服は何年も着られるし、本当に気に入った服は愛用していた。そういう長く着たい服が流通するといいと思う。(40代 女性)
- ・大量生産を改め、ファストファッションを減らしていく取組みを行っていく。
(50代 男性)
- ・消費者が意識する前に、事業者の意識を変え、ファストファッションで大量生産を減らすことが大切だと思う。
(20代 女性)
- ・安い服を毎年買って捨てるのではなく、長く着られる質の良いものを買うのが環境にも良いと思う。大量に安物を生産して売る時代はもう終わったと思う。
(50代 女性)
- ・ファッションに興味がないが、ファストファッションで安い服を大量生産するより、いい服を適正な数だけ生産すべき。
(40代 女性)
- ・消費者のスマートな買い方を広く広めることはもちろんだが、事業者の大量生産、消費の部分改めることが大切だと思う。(税金、法律の整備など) (30代 男性)
- ・衣服の大量生産、大量消費の時代は終わっていると思いたいが、安さを前面に打ち出して購入意欲を刺激するやり方が続いている。自分自身、不用になった衣服の処分にも困っている。少しだけ流行を取り入れたシンプルな服を購入し、大切に着るようにしていきたい。(60代 女性)

- ・「流行」を作るから、着られる服でも「流行遅れ」と人から言われ、着なくなってしまふ。自分が好きで合ってる服なら、ずっとダメになるまで着続けることができるよう、恥ずかしいと思われずに着用できる日本になってほしい。(60代 女性)
- ・近年、国内のファッションはアジア限定特に韓国のファッションを例に挙げる傾向にある。このままでは、世界全体のファッションのサステナブルな傾向が見えなくなるのではと危機感を持っている。(30代 男性)
- ・サステナブルファッション対象の商品と、通常の商品を価格面で比較したときに、前者の方が高価格であれば消費者は購入をためらうと思う。何らかの付加価値、環境配慮以外の何かが必要と感じる。(30代 男性)
- ・大量消費を前提とした中で、消費者に出来る取り組みは微々たるもののように感じる。社会全体の意識が変わるメッセージを発することが必要だ。(40代 女性)
- ・着用と廃棄を考えて生産に取り組んでほしい。(70歳以上 女性他1名)
- ・生産から廃棄の一連のプロセスで、特に廃棄の部分に一番力を入れて取り組むべきと思う。なぜなら一連のプロセスの中で一番消費者に関わることで、一人一人が意識しないと改善が難しい部分だから。(20代 男性)
- ・サステナブルファッションについて深く考えたことはなかったが、生産から販売、消費まで環境負荷をおさえる方法はいくらかでもあると感じる。企業や行政はもちろん、私たち自身も環境負荷を減らす手段を意識して、少しでも良い環境にできるよう努力していきたい。(20代 男性)
- ・流行に興味はなく、肌に優しく、長く着用できる衣服で良いと考えているので、自分自身は天然サステナブルかもしれない。製造者やファッションを発信する立場の人たちが、しっかり意識して取り組んで頂ければ良いのではないか。(50代 男性)
- ・トレンド・流行がある限り、短期間だけの着用となるのはあきらめ。サステナブルとトレンド流行は同時には進められないと思う。(50代 女性)
- ・流行は楽しいかもしれないが、物を大切に使う、そして伝えていくことの楽しさ、工夫する心を育てる教育、社会になるといいと思う。(60代 女性)
- ・流行というものの存在が、着られなくなる服の要因の一つだと思う。永く使いたくても「ダサい」「合わない」となると着づらくなってしまふ。中古市場に出しても、流行が再度めぐってこないと売れないものもあり、難しい課題だと思う。(30代 女性)
- ・ファッションは個人の好みにより選ばれると同時に、流行に大きく左右されると思う。このことから、着用しなくなったもののリサイクルや再流通を促進する取り組みの拡大が、今後のサステナブルの在り方に寄与するのではないか。(40代 男性)
- ・衣服の製造に多くの資源が必要で環境への負荷もある。子供たちがひとりでも多く、衣服を長く大切に着ること、将来、環境によりやさしい衣服が作られることを願っている。(40代 女性)
- ・ブランドの会社は、売れ残った衣服を捨てていると聞くので、せっかく作ったものを

もっと生かせる方法はないものかと思う。（30代 男性）

- ・私はあまり服を買わないので、あまり関心のないテーマであったが、本アンケートで「なるほど」と思った。サステナブルファッションは重要である一方で、アパレル業界もかなり苦しい時代だと思うので、アパレル業界の持続可能性も考慮すべきだと思う。（30代）
- ・リサイクルしやすい衣服づくりや、着なくなった衣服を回収しやすい環境づくりが進めば、消費者の意識が高まると思う。（特にファスナー等の金属部分がある物は、分別に手間がかかる）（50代 女性）
- ・リサイクルやリメイクにも限界がある。最終的には、環境負荷が少ない商品の開発が一般的になればよいと思う。（50代 男性）
- ・市場に流通する商品そのものに環境にやさしいサステナブルなものが多くなれば良い。（70歳以上 女性）
- ・有名ブランドが「サステナブル素材」として売り出しているのを見るようになった。ただ安価なファストファッションが主流であり、また物価高な現在、買い控えがあると思われる。経済改善と同時に行う必要があると思われる。（40代 女性）
- ・地球に負担をかけない生活を、国や地方で未来を支える子供たちにはもちろん広い世代の人たちにも広く情報提供し、世界中で認知度を高めていくことが大切。（70歳以上 女性）
- ・サステナブルファッションという単語を初めて知った。この前買ったばかりの服のボタンがとれてしまったが、自社製品の修理の事業化はとても良いと思う。（20歳未満 女性）
- ・私は母のお下がりの服を着ているが、それもサステナブルファッションに繋がっていると分かり嬉しくなった。リサイクルショップに売りたいくても、売った場合の利益が少なく、売らずに捨ててしまったことがある。リサイクルに取り組む消費者に対する還元があれば、サステナブルファッションに向けて行動意欲がわくのではないか。（20代 女性）

○制服リサイクルについて

- ・学校の制服は生地も良く、高価なのに約3年と着る期間が短い。もっと制服リサイクルを活発にしてほしい。（30代 女性）
- ・リサイクルできる小、中、高校の制服や体操服などを回収して、希望者に配布するシステムができると良い。（40代 女性）
- ・子供の成長に伴い、服がすぐ小さくなるが、古着やリメイクはいやだ。最近の子は、汚しもしないので、捨てるにはもったいないし、増えていく一方だ。市や業者が中に入り、回収日を設けてはどうか。（40代 女性）
- ・こどもの服については流行りすたりはあまり関係ない（子供自身は気にしてない）ので、おさがりをたくさんもらって着させている。これもサステナブルファッションか。

(40代 女性他1名)

- ・「子供の古着、一点ものに変身」との新聞記事を見つけた。「成長に伴い着られなくなった自社ブランドの子供向け製品を買い取り、修理して販売するリセール事業を始めると発表。このような事業者の取組みを、インターネット等でも紹介し、若者世代でもサステナブルファッションへの関心が高まればよいと思う。(60代 女性)

○購入する時について

- ・購入時には、本当に必要かどうかを良く考えたい。(50代 女性他5名)
- ・流行を取り入れることにとらわれず、長く着られるようなデザイン、質のものを購入するように意識したい。(20代 女性他3名)
- ・流行に左右されない。個人個人が自分をアピールできる服の着方を考えよう。
(70歳以上 女性)
- ・流行のものを買うのではなく、自分に合ったものを着て、大切に着ていくべきである。
(20歳未満 女性)
- ・衣類を長く着用することは良いことだ。流行にとらわれず、自分のスタイルを確立しておしゃれを楽しむことが大切だと思うし、他の人もそうあってほしい。
(60代 女性)
- ・ワクワクしながら購入する際も、環境に配慮されているかに留意し、自分らしさのファッションを楽しんで、感謝してその洋服に「サヨナラ」が言えるようにしたい。
(50代 女性)
- ・流行を追うばかりではなく、長く着用(少なくとも2~3年)できる物を購入したい。
(50代 女性)
- ・インターネット店舗のあるお店の場合、コーディネートも紹介している場合があるので、家にある服と合わせやすいか考えて、なるべく実店舗で試着して買うようにしている。(40代 女性)
- ・認証マークの付いた品の税を安く、環境負荷を数値化して税金をかける。消費者にも見えるので、購入時に選択できるし、意識も高まる。(70歳以上 女性)
- ・購入する前に、タグを見る、品質を確認し、廃棄するとき、環境に害はないか、必要か等考える。(70歳以上 女性)
- ・衣服を購入する時は、必要な物かを良く考えてから購入し、いらなくなったものは、必要とする人の手に渡るよう行動したい。(20代 女性他1名)
- ・買うときはよく考えて買っているつもりだが、改めてタンスを見ると、あまり着ていない服があり、もっと考えて購入するようになりたい。(50代 女性他1名)
- ・着回しや長期間着ることを考えて、購入を決めている。流行が気にならなくなった年齢になったかもしれない。最近は低価格の衣服が多くなったせいで、長期間着ることをしなくなったのではと思う。(60代 女性)

- ・これまで意識したことがなかった。購入する時、廃棄するときにサステナブルファッションを意識したい。（20代 男性）
- ・値段が安いので使い捨てが行われる。高くすることで、大事に長く着用するのではな
いか。（40代 男性他1名）
- ・自分の知識のなさを反省している。心赴くままに購入し、処分していた。環境に負荷
をかけない生活様式を心掛けたいと思う。（70歳以上 女性）
- ・自分自身の体型管理を行ない、買い換えの回数を少なくする。
（70歳以上 女性他1名）

○サステナブルファッションの推進方法について

- ・変に海外に影響されることなく、日本に適した方法で取り組んでほしい。
（20代 男性）
- ・海外の事例を参考に行政が取り組み、簡単で持続可能な仕組み作りをしてほしい。バブ
ル期経験者に「サステナブルファッション」の意義の周知もしてほしい。以前、テレ
ビで見たが、フランスの街中に衣類入れボックスが設置されており、不用な衣類をい
れ、衣類が必要な人は取り出し口から持っていく、というシステムを紹介していた。
これは参考になると思った。（70歳以上 女性）
- ・フランスのように本当に似合う物を大切に着る、見つけられるように小さい頃からオ
シャレのレッスンをする教育があってもよいように思う。（30代 女性）
- ・洋服については、今後サステナブルファッションに留意した対応に努めたい。着物は
大量にたんすの肥やしになっているのが、気がかりだ。（70歳以上 女性）
- ・初めて耳にした。コーヒーについては、フェアトレードという言葉聞いたことがあ
ったが、衣類については知らなかった。（60代 男性）
- ・サステナブルファッションの意味を1ページに書いてほしかった。分らない人も多い
と思う。（70歳以上 女性）
- ・サステナブルファッション、SDG、プラなど、カタカナにすれば良いってわけじゃ
ない。人々の考え方をコントロールするメディアの意図を感じる。（60代 女性）
- ・環境負荷等の社会的課題が、世に広く知れ渡っていないと思うので、認知を広げてい
く必要があると思う。（30代 女性）
- ・富山県内で生産し、リサイクルする。それを、環境負荷の少ないもの、伝統品を生か
したものにしてほしい。（40代 男性）

○衣類の寄付について

- ・使わなくなった衣服は途上国への支援に使いたい。（20代他2名）
- ・国が回収し、途上国へ送る仕組みが望ましいと思う。（60代 男性）
- ・売れ残った価値の低い古着は途上国に低価格のまま輸出する。（20歳未満 男性）

- ・不要な衣服を捨てないために、いろいろなところで回収や、途上国へ寄付するためのBOXを設置すると良いと思う。（20代 女性他2名）
- ・You Tube で古着を発展途上国へ持って行くのを見たことがある。そういう広報を進めていけば関心も深まると思う。（20歳未満 女性）
- ・途上国に古着を送ると、現地の衣料品産業の発展を妨げるおそれがあると思う。また、日本人がまだ着られる衣類を途上国に送り、自分は新しいものを購入することがよいのか疑問に感じる。（50代 女性）
- ・服を寄付された海外の国では、その多くが捨てられ、ゴミ問題、海洋ゴミ問題が深刻だと聞いた。一概に寄付が良いわけではなく、そのほかの処分方法も広がればよいと思う。（30代 男性）
- ・途上国への支援も良いが、送られた国でまた、ゴミとして不法投棄されているニュースを見ると、先進国が、自国のゴミ問題を途上国に押し付けたようで、いたたまれない。私たち一人一人ができるだけ衣服をゴミにしないで活用することを考えて実践することが大切。（60代 女性）
- ・最近「古着でワクチン」というテーマを掲げた婦人雑誌で、代金3000円を払って、古着を送るための袋を購入した。断捨離が主目的だが、捨てるにはもったいない、ならばアフリカの子供たちの予防接種代になり、洋服などを再利用してもらえれば、一挙両得である。（60代 女性）
- ・韓国は、洋服ボックスが、ゴミステーションの様に各町内におかれていて、集配を行うリサイクル業者や、再生布を扱う事業者により、リサイクル商品となっていると聞いた。日本も考えて良いのではと思う。（60代 女性）

○リサイクル、回収の仕組みの周知について

- ・もっと簡単に着られなくなった衣類を回収してもらえるようになれば良い。
（40代 女性他2名）
- ・分りやすい情報提供があればよい。（30代 女性）
- ・3L以上の大きな服も流通（再利用）可能なシステムができればよい。（私自身が大柄で不用な服をリサイクルに出したら受け取ってもらえなかったので）（50代 男性）
- ・先日、テレビのニュースでいらなくなった古着など駅で回収しているのを見て良いことだと思った。もっと広げてほしい。（70歳以上 女性）
- ・ブランドに関係なく衣類を回収してくれる場所が身近にあると利用しやすいし。（50代 男性）
- ・リサイクル、エシカル消費などできることから実行し、家族、友達などに広めていけたらと思っている。（60代 女性）
- ・不用になった衣服は可燃ごみとして捨てていた。回収ボックスが設置されれば、リサイクルに回せるかもしれない。（70歳以上 女性他1名）

- ・「衣」について意識が低く、ゴミに出すしかしていなかった。消費者にもっと周知し取り組まなければならない課題だと思った。（50代 女性）
- ・衣類を廃棄する時は労力をかけず袋に入れてゴミステーションに持って行くが、手間をかけず再利用、資源化を促す手段があるといい。（60代 女性）
- ・価格が安く使い捨てに近い製品は、二次的な活用は難しいと思われるので、回収等の仕組みが必要と考える。（50代 男性）
- ・中古衣服に抵抗がある人は、ある程度いると思う。リサイクル以外での違った形だと手に入れようと思う。（20代 女性）
- ・よく買うお店で、古着回収をしているものの、基本的に1年以上着ていて、汗じみ、汚れ、ほつれがある物が多く、回収ボックスに入れるのが申し訳なく、可燃ごみとして捨ててしまう。どのくらいまでならOKなのか、古着活用ではなく、新しいものに作り替えるとか、何らかの指標を示してほしい。（20代 女性）
- ・不用な衣類の回収・リサイクル方法等について、更に、周知、啓発することによって、タンスの肥やしにすることなく、流通につながり大量の廃棄抑止にもなると思う。（50代 男性）
- ・不用になった衣服をどのように有効利用してもらえるか、その手段が分からない。結果、タンスに眠ることになる。またはゴミとして出すしかない。（60代 女性）
- ・着衣には無頓着な方なので、あまり気にしていなかったが、古着の利用も考えるようにしたい。（50代 男性）
- ・古着をセンス良く着回す仕組みを作り、分り易い方法で広めてほしい。なるべく捨てないでいきたい。（70歳以上 女性）
- ・売れ残りを減らすこと。自身の服（着用しないもの）を気軽に再利用する情報が欲しい。（40代 男性）
- ・コロナ流行の中、外出の機会が減り、着ないまま在庫になってしまう。捨てるのはいやなので、持ち寄って使いまわしができる仕組みがあればいい（70歳以上 女性）
- ・今までは何も考えず、使えなくなったら捨てていたが、今後はサステナブルに考えて、購入→使用→再生→使用と使っていきたい。（70歳以上 女性）
- ・衣類の生産～廃棄の方法が、環境に大きな負荷を与えていることを知り、自分で出来る事を考えていきたいと思った。（70歳以上 女性）
- ・必要な分だけ購入する。処分はせずに、リサイクルに回す。（50代 女性）
- ・買った時のことを考えるともったいないという気持ちが強く廃棄は躊躇する。（60代 女性）
- ・気に入っているものを長く着ることで無駄な衣類が増えないように心掛けたい。捨てる事より、大切に使うことを意識して。（40代 女性）
- ・他県では、自治体が古着を回収し、その自治体内で、無償でリユースしている話を聞いた。個人では捨てることに罪悪感があるが、手段がない。知らないこともあるので、

- サステナブルファッションの情報を得る機会を与えてほしい。 (40代 女性)
- ・身近な地域でのバザーなど、リサイクルできる場が以前に比べて少なくなっているように感じる。(リサイクルショップに持っていくほどではないが、必要な人がいれば、使ってほしいと思う物が結構ある) (50代 女性)
- ・リメイクを楽しんでいる。 (70歳以上 女性他1名)
- ・古着はできるかぎり、リフォーム又はリリースを心掛けている。食品は消費期限、賞味期限のチェックを定期的に行っている。調度品、家具は長く使用できるものを、又はリサイクル品も積極的に購入。 (70歳以上 女性)
- ・自分で洋服を作ったり、和服をリフォームしている布を選ぶようにしたい。
(70歳以上 女性)
- ・出来るだけリサイクルしたい。 (70歳以上 女性他2名)
- ・古着を買うことに抵抗はあるが、自分が着た服の回収や捨て方を考えたいと思った。
(20代 女性他1名)
- ・今は古着が流行っているのでリユースが上手くいっているが、もちろん流行なので終わる日が来る。その時にどうやってもう一度リユースを行っていくか。
(20代 男性)
- ・自分が使わなくなったモノを他の人にあげたりしてリユースの意識を高めたりすることが大切。 (20代 男性他1名)
- ・家に服があふれそうなので、推進したい取り組みである。 (20代 男性)
- ・皆がサステナブルファッションの情報にふれられる機会を増やし、意識の向上を図ることが大切だと思う。 (60代 男性)
- ・海外の低価格通販サイトをなんとかしたほうがよい。
- ・コインランドリーなどに服の回収箱を置くと良いのではないか。 (20代 女性)
- ・今まで意識していなかったが、最近お店でも回収ボックスを見るようになった。
(20歳未満 女性)

○環境への配慮

- ・合成繊維のもの→マイクロプラスチックとの関連をもっとアピールする必要がある。(その他マイクロプラスチックになってしまう物なども) (50代 女性)
- ・マイクロプラスチックを流出させないことを強く望む。人体への影響が怖い。
(60代 女性)
- ・マイクロプラスチックなど環境問題を解決するための取り組みはもっと多くの人に知られるべきだと思った。 (20歳未満 女性)
- ・環境にも地球にも優しい取り組みはよいと思う。 (20代 女性他4名)
- ・地球環境を守るためにこれからも積極的に取り組んでいこうと思う。
(40代 女性他3名)

- ・服一枚でも、環境に配慮して地球に優しい服の使い方をするのはとても良い考えだと思った。（20歳未満 女性）
- ・環境保全は一世代でできるものではないので、知識を広く長く伝え続けなければならない。（70歳以上 女性）
- ・環境を悪くするのは人間の身勝手な行動によるものだ、良くしていくためにどうしたらよいか、事業者も消費者も考えなければならないと思う。（20歳未満男性）
- ・レンタルサービスがどのような形態なのかわかりませんが、もしトラック等で運送しているのなら、その環境負荷と廃棄の環境負荷では、レンタルの方の環境負荷が小さいのかが気になった。（20代 女性）
- ・スーパーのトレイ回収や書店の雑誌回収のように、服装でも店の近くに回収ボックスを設置すればよい。（20歳未満 女性他1名）
- ・資源回収しているところは、購入した店舗の品物に限る場合が多いので、何でも受け入れてくれる場所があるとよい。（40代 女性他1名）

○その他

- ・再生紙のように再生布のようなものができればよいと思う。（20歳未満 男性）
- ・日本製の服がもっと増えたら良いと思う。（20代女性）
- ・子育て世代の女性がたまに着るおしゃれ着について、レンタル料を割り引きしてあげるといい。（60代 女性）
- ・服の資源は限りあるものであり、輸入にほとんど頼っているのが大切に使いたい。（20歳未満 男性）
- ・正直名前は聞いていて、どんなものなのかは知らなかったが、環境にやさしい取り組みであることがわかった。応援したい。（20歳未満 男性他2名）
- ・衣服による環境負荷についてあまり考えたことがなく、知らないことばかりであった。「食」や「住」と同じように関心を持っていきたい。（50代 女性他1名）
- ・商品を見て、「きれい、安い」などと思うだけでなく、だれが、どんなふうにつけているのか、捨てる時はどうなるのかを考えていきたい。（70歳以上 男性）
- ・安かろう悪かろうの商品を減らしたい。（70歳以上 女性）
- ・物を大事に、無駄を省くことなのではないか。（70歳以上 女性）
- ・町内で資源回収はされていないので、可燃ごみに出している。（70歳以上 女性）
- ・あまりリサイクルばかりすると、衣類が値崩れするのではないか。（20代 男性）

環境に負荷をかけない生活様式のために ～サステナブルファッションの実現にむけて～

富山県消費者協会・消費生活研究グループ連絡協議会（令和4年6月）

<調査の目的>

新型コロナウイルス感染症の発生から3年が経ち、日常の生活も変化しつつある中、特に情報ツールの普及により消費者の行動も多様化しています。一方で、地球温暖化やエネルギーなどの環境問題では、SDGsの目標達成に向けた行動指針を掲げる事業者や団体も多くなり、課題解決に向けた取り組みが進みつつあります。

今回の調査では、日常生活にかかわりの深いファッションと環境問題に着目し、私たちが日常着用する衣服をテーマに取り上げました。皆様の消費者としての日常行動やこれからのあるべき姿についてご意見を伺いたく、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

<回答方法>

- ・全部で5ページあります。当てはまる番号の枠内に✓印をつけてください。
- ・「その他」を選択された場合、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ・なお、回答いただいた内容は統計的に処理し、個人の情報を公表したり、調査の目的以外に使用することはありません。
- ・設問の中の※印のついた用語の説明は、各ページの下欄に掲載してあります。

あなた自身についてお聞きします。(記入漏れにご注意ください。)

- ・年代 ①□ 20歳未満 ②□ 20歳代 ③□ 30歳代 ④□ 40歳代
⑤□ 50歳代 ⑥□ 60歳代 ⑦□ 70歳以上
- ・性別 ①□ 男性 ②□ 女性 ③□ 回答しない
- ・職業 ①□ 給与生活者 ②□ 自営・自由業 ③□ 家事従事者
④□ 学生 ⑤□ 無職 ⑥□ その他 ()
- ・家族構成 ①□ 1人(単身) ②□ 夫婦のみ(1世代)
③□ 夫婦と子供または親と自分(たち)(2世代)
④□ 親と子供と孫(3世代) ⑤□ その他 ()
- ・住所(市町村_____市・町・村)
- ・住居の形態 ①□ 戸建 ②□ 集合住宅 ③□ その他 ()

I サステナブルな生活に関する意識について

問1 以下の項目について、どの程度意識して行動していますか。(該当する程度について✓印をご記入ください)

	項目	行常 動時 し意 て識 いて る	行概 動ね し意 て識 いて る	い余 ない り意 識し て	い全 ない く意 識し て
衣	① 必要性の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	② 購入・入手方法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③ 手入れをして大切に使うこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	④ 環境負荷の少ない処分方法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食	⑤ 食品ロスの削減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑥ 地産地消	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑦ フェアトレード※1 オーガニックなどの商品の購入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑧ ごみの削減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
住	⑨ 節電、節水	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑩ 省エネ家電や太陽光発電などの活用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑪ 宅配の再配達防止	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑫ 地域の清掃活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※1 フェアトレード（公正な貿易）とは、開発途上国でつくられた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取引」することによって、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の「生活改善」と「自立」を目指す貿易の仕組みのことです。

Ⅱ 衣服・ファッションについて

問2 地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素の削減のために、食や住について関心が高まっていますが、最近の環境省の調査では、衣服による環境負荷等の社会的課題が指摘されています。次のうち、知っている項目はどれですか。（いくつでも）

- ① 日本の小売市場で売られている衣服の約98%が、海外から輸入されている
- ② 天然繊維や合成繊維の原材料調達から製造段階までに、二酸化炭素排出や大量の水消費など大きな環境負荷がかかっている
- ③ 1年間1回も着られていない服が、一人当たり25枚もある
- ④ 家庭から手放される衣服の量は年間約75万トン、うち約50万トンが可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄されている
- ⑤ 家庭から手放される衣服のうち、リユース・リサイクルされる割合は約34%である
- ⑥ 衣服がごみとして廃棄される場合、ほとんどはそのまま焼却・埋め立て処分されている

問3 日常着用する衣服を購入する時に、重視することは何ですか。(5つまで)

- ① 価格
- ② 好みのデザインやサイズ
- ③ トренд・流行
- ④ 着心地の良さ
- ⑤ ブランド・メーカー名
- ⑥ 着回し・コーディネートしやすい
- ⑦ 耐久性・修繕可能なこと
- ⑧ 環境や人・社会に配慮した製法や素材を使用
- ⑨ リサイクルやリメイクのし易さ
- ⑩ 手入れのしやすさ
- ⑪ その他 ()

問4 衣服を購入する手段は、主にどれですか。(3つまで)

- ① 店舗購入
- ② インターネットショッピング
- ③ カタログ通販
- ④ テレビショッピング
- ⑤ リサイクル店
- ⑥ フリーマーケット
- ⑦ インターネット中古市場
- ⑧ その他 ()

問5 お持ちの衣服の、日常の着用状況についてお聞きします。(1つだけ)

- ① すべて着用している
- ② おおむね着用している
- ③ 半分ほど着用している
- ④ あまり着用していない

問6 問5で②～④と答えた方にお聞きします。着ていない衣服についての理由をお聞かせください。(いくつでも)

- ① 買ったが、自分に合わなかった
- ② もらい物などで、自分に合わない
- ③ 体型や好みが変わった
- ④ 流行が変わった
- ⑤ 着る機会がなくなった
- ⑥ たくさん持ちすぎている
- ⑦ その他 ()

問7 着なくなって不用になった衣服は、どのように取り扱っていますか。
(3つまで)

- ① フリマアプリやリサイクルショップで売る
- ② リメイクして着用する
- ③ 地域や店頭での資源回収に出す
- ④ 人にあげたり、寄付をする
- ⑤ たんすなどにしまっている
- ⑥ 可燃ごみとして捨てる
- ⑦ その他 ()

問8 中古衣服・古着について、あなたの感覚に最も近いものは、どれですか。
(1つだけ)

- ① 全く抵抗感はない
- ② あまり抵抗感はない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや抵抗感がある
- ⑤ 強い抵抗感がある

Ⅲ 衣服の大量廃棄を生まないために

問9 「サステナブルファッション」^{※2}という言葉を知っていますか。(1つだけ)

- ① 聞いたことがあり、内容も知っている
- ② 聞いたことはあるが、内容は知らない
- ③ 聞いたことがない

※2 サステナブルファッションとは、衣服の生産、着用、廃棄のプロセスにおいて、持続可能であることを目指して、生態系を含めた地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組みのことです。

問10 サステナブルファッションの実現に向けた次の行動のうち、取り組みたいと思うものはどれですか。(5つまで)

- ① 手持ちの服を見やすく整理し、季節ごとに点検・見直しをする
- ② 本当に必要かどうかよく考えて購入する
- ③ 長く着用できるものを買ひ、大事に使う
- ④ バザーやフリーマーケットなどで古着を買う
- ⑤ レンタルサービスを利用する
- ⑥ 処分するときのことも考えてみる
- ⑦ マイクロプラスチック^{※3}を流出させない
- ⑧ 家族や友人などで着回しする
- ⑨ 処分するときは、買取店、古着回収、フリーマーケットなどを活用する
- ⑩ リメイクを楽しむ
- ⑪ 使い道がない場合は資源回収に出す
- ⑫ その他 ()

※3 マイクロプラスチックは、5mm以下の微小なプラスチックのことで、ポリエステルのような合成繊維を使った服からも、洗濯のたびにマイクロプラスチックが細かい繊維として流れ出し環境問題になっています。

問 1 1 サステナブルファッションの実現のために、事業者に見込むことは何ですか。(5つまで)

- ① 適正な在庫管理や受注生産など、生産過剰にしない仕組みづくり
- ② リサイクルの方法を示し、回収ボックス設置などリサイクルしやすくする
- ③ 商品購入時に商品の環境負荷や環境配慮に関する情報が分かるようにする
- ④ レンタルサービスなどでおしゃれを楽しむ機会を作る
- ⑤ 長期間着られることを前提とした商品企画をする
- ⑥ 自社製品の修理を事業化して行い、顧客との長期的な関係を維持する
- ⑦ 着られていない衣服の再流通を促す取り組みをする
- ⑧ 環境負荷が少ないオーガニックな商品を販売する
- ⑨ 伝統産業を生かした衣服を販売する
- ⑩ 発展途上国への寄付の受付
- ⑪ 消費者に対し、サステナブルファッションを分かりやすく説明する
- ⑫ その他 ()

問 1 2 サステナブルファッションの実現のために、行政に見込むことは何ですか。(3つまで)

- ① 自治体による衣服の回収の仕組みづくり
- ② 可燃ごみとして捨てる以外の方法についての情報提供
- ③ 途上国などへの支援の仕組みづくり
- ④ サステナブルファッションに取り組んでいる企業を応援する
- ⑤ 消費者に対し、サステナブルファッションを分かりやすく広報する
- ⑥ 消費者に、サステナブルファッションの認証マークを説明し、認知度を高める
- ⑦ 未来を支える子供が関心を持つような教育活動を推進する
- ⑧ 海外の先進的な取り組み事例を紹介する
- ⑨ その他 ()

サステナブルファッションについてあなたの考えを自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせ先
富山県消費者協会（県民共生センター内）
TEL 076（432）5690

**「環境に負荷をかけない生活様式のために
～サステナブルファッションの実現に向けて～」
調査報告書（令和4年12月）**

富山県消費者協会

〒930-0805

富山市湊入船町6-7

（県民共生センター内）

TEL 076-432-5690

FAX 076-432-5693

